第四百六十八號目次

◎社說
政客の所云ゆる第二維新

◎女學
假か立身者の家政
蓄妾の弊風
時事叢の婦人論

◎教育
文部大臣論
學者先生（大學獨立の無益）

◎評論
吉備史屑（長井金風）

◎雜錄
紅白點々、樂美界の落穗（青柳有美）
（幸田女史最近の音樂談）
（忍が岡演奏會素人評）
海舟老伯談話

◎時文
鳴鼓錄（佛教的基督教）
信仰之友〇樂天錄〇幕末小史〇一葉舟〇聖書の道

◎片々
アムハラバ◎衆議院の基督教◎宗教狂◎現內閣の持續如何◎本年の米作◎春畝侯◎李少筌◎教育界の異色◎女演說◎獵官

◎時報

社告

◎本誌は每月二回即ち十日、二十五日の兩日を以て發行す
◎十日發行の分は稍や平易實際の記事を專にし、第一、家庭の整理改善に益あるべき事項を主として、其他、文藝、史傳、問答等の諸欄に重きを置き、二十五日發行の分は、女學宗教及び教育等に對する吾黨の卑見を陳述し、大に世上君子に問はんとするを旨とす。
◎單に十日發行の分のみ又は廿五日發行の分のみと指定して所望せらるゝものあらば其の需めに應ずべし

●女學雜誌定價表●

前金	壹册定價	拾錢
	半年分定價	壹圓拾錢
	一年分定價	貳圓
	（內國無郵稅）	
	代金は惣じて前金にて御注文ありたし◎年來引續購讀の諸君にて前金切れ候共御斷無之間は引續き發送するとも可有之事	
廣告料	一行（廿七字詰）一回	前金拾錢
	同　三回以上	一割引
	同　六回以上	二割引
送金	送金は東京駒込郵便支局に宛て小爲替にせられたし（郵便切手にて送らるゝ人は惣べて一割增にて計算せられたし	

發行兼編輯人　巖本善治
印刷人　布川孫市
東京府北豐島郡巢鴨村字庚申塚二百四十六番地
發行所　女學雜誌社
東京市麴町區下六番町六番地
發賣所　女學雜誌社支局
東京市神田區表神保町
大賣捌　東京堂
東京市牛込區市谷加賀町一丁目十二番地
印刷所　株式會社秀英舍第一工場
（電話本局十九番）

女學雜誌社出版書目

巖本善治著　**吾黨の女子教育**　正價金十錢　郵稅金二錢

巖本善治著　**公娼可滅**　正價金三錢　郵稅金二錢

島田三郎、植木枝盛二君合著　**廢娼演說**　正價金三錢　郵稅金二錢

櫻井成明君譯　**腓立比物語**　正價金二十八錢　郵稅金六錢

横山雅男君著　**婚姻論**　正價金十二錢　郵稅金四錢

若松賤子君譯　**小公子**　正價金三十五錢　郵稅金八錢

故若松賤子英文集　**巖本嘉志子**　正價金六十錢　郵稅金六錢

布川靜淵、故小此木秀野君合著　**俳諧史傳**　正價金二十七錢　郵稅金四錢

故鈴木弘恭君述　**百人一首講義**　正價金二十八錢　郵稅金四錢

同　**文法口授**　正價金十二錢　郵稅金二錢

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

女學雜誌

第四百六拾八號

明治三十一年七月廿五日發兌

社説

政客の所謂る第二維新

◎今度の政變は、兎に角、大變化と見なければ成らぬ。無論、政事の本軆から見れば、些細の事で、かれこれと大業に言ふべきほどの價値はないが、近代の世の論客が八釜しく言ひ立てた見識から評して見れば、是非とも之を大變化と言はねば成らぬ。ナゼならば、今日あらんことを期して殆んど二十年間、囂々として議論を仕たのでは無いか。サスガ、西郷、大久保の如き人傑は、一層大規模の經綸もあつたことであらふが明治十年十一年に彼等が草頭の露となり果てたる後は、天下著名の論客は、偏えに國會と政黨内閣とを希望したのであらふ。而して、今日は現に其の希望通りになつたのであるから、直ちに之を一大變化と稱して、盛んに祝さねばならぬ筈である。然るに、實際其場に至つて見ると、事皆な預想外で、何んだか思つた程にも無いと元氣抜をしたらしいが、之が甚はだ宜しくない。元來、馬鹿な預想を仕たのも愚であるが、いよ／＼其場に至つて見て預想の通りでないことに失望するは人事の常態なるに、其常態に今更ら愕ろきて失望するも亦た愚ではない乎。若し政事の本軆に立ち反りて、洞然として眞面目の覺悟を發揮したりと言はば亦た格別。從來同様の識見で、別段政治上の理想が違つたのでも無くんば、今日の政變を乃はち一大變化と見做して、それ相應の一大奮發あるが當然の事と思はれる。

◎一軆、政事を天下の討論に委ねて、其の多數決で行つて行くなどと云ふことは、學者の空論である。現に、此空論を主義として成り立つて居る所云ゆる政黨なるものすら、大切の樞機を多勢に委ねて、之を多數決でキメてゆくなどと云ふことは行はれるもので無い。一家にせよ、一事業にせよ、一國の

政事にせよ、物の筋道は同じことで、最後最上の樞密秘訣と云ふものは、僅々たる少數の手腕によつて運轉さるべきものである。然し乍ら、此の少數の手腕なるものが、もし自から私するの心で運轉すれば、事々に民望に反き、百の弊害之より起るを以て、衆の望む所、衆の樂しむ所ろを察して、宜しきを制してゆくので、之が昔しで言わば堯舜の心、今で言わば、輿論に從ふと云ふのである。固より、多數の決する所ろを無頓着に置くと云ふのでは無いが、其の多數決を重んずる重んじ方が違ふ。申さば親の慈悲心か、師匠の參考心と云ふような所から出なければ爲らぬ。故に時としては、全く此の多數決に背いて、まるで其の反對を斷行することが無ければならぬが、其の背むき方にも亦たいろ〳〵あつて、專制政府の時なれば、頑として取り上げぬと云ふやり方もある。立憲政躰ならば、解散、もしくは明渡しと云ふやり方もあるが、つまりは、輿論に從はぬと云ふのである。何でもかでも輿論の多數決に從ふと云ふのでは無い。左すれば、多數決に鑑みて政事をすると云ふことは、昔しでも今でも同じことで、なにも、憲法政治に限り其事があると思ふては成らぬのである。政治の本躰は、今も昔しも同じである。たゞ其の政躰は時世によつて變つてゆくものであるから、又、其の變つたまゝの筋道を立てて行ねば成らぬ。裸躰が善い、禮服が善い、立つが善い、坐るが善いなど丶云ふことは、ホンノ時世相應に定めべきことに過ないが、扨て定めて見れば又其の道とする所に從わねば成らぬ。政治の本躰から見れば、一時の政躰は假のものであるが、假だからとて輕んずるは、本躰を重んずる人の言ふべきことでない。夫處で、今更ら憲法中止などを言ふ人は眞ことに短氣な小見識なことだと言わねば成らぬ。

◎何故、憲法中止などと、弱いことを言ふのである乎。抑そも、日本の憲法は欽定憲法で、陛下が其の大權の幾部を人民に恩賜されたのである。人民から申せば、眞とに忝ないことであるから、人民の惣代たる議員等よりして憲法の一時中止を請願するとあれば、條理も立つが、陛下を補佐する政府の役人の側よりして、陛下にお勸め申して憲法の中止をなし、陛下が人民に御約束なされたる勅旨の恩を暫時にても中絶せしめ、本末終始の御美德を少しでも傷つけると云ふことが臣たるものの補佐の道である乎。もしも國歩艱難にして絶躰絶命の

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

地に陷いり、是非とも此の道に由るの外、道なきに至らば、又自づから其の致され方もあると申すもの也。今日位ひの難局に際して、堂々たる憲法の中止を爲し、陛下の御仁德に傷をつけようとするなどは、何たる事であらふ。吾輩は今時の論客のように、直ちに之を以て不忠不臣とは言はぬ。何故なれば、其のような人でも、心は眞とに愛國の忠義から出て居ると信ずるゆへである。然し乍ら、如何にも不見識で、且つ性急短氣なからして左樣の事を言ふのであらふと、コウ評して置たい。

◎扨て、何故、憲法中止論の是非を今更ら繰返すかと言ふに、吾輩は元來、政黨内閣とか、國會政治とか言ふものを、今の論客のように有がたがるものでは無いが、夫でも既に其政躰となつて居る今日に當つては、其の政躰のまゝで條理を立てゝ行なければ成らぬと言ふの主旨から、コンナ事を論じたのである。元來、一大事と言ふものは、ソウ〳〵多くあるもので無い、隨つて、革命などと言ふ事もソウ多くあるものでもない。又多きを望むべきものでもない。たゞ止を得ざるの大必要に促がされて、斷行するものである。左れば、既に今

日の政躰となつて、此の政躰でやつて行くべきとキマリ、陛下の勅定もあつたとすれば、此の政躰の道を履んで、少しでも實利實益を起すようにするのが、急務ではない乎。ソコデ、政黨内閣と云ふものを一大理想として此の二十年を經過したとであるから、彌よ政黨内閣の如きものが出來上つたる今日となりては、又々第二の空論にうつりて、たゞ〳〵政躰、政形の詮義に日を暮さんより、速やかに、政治の實際に骨を折つた方が善ひではない乎。いつ迄も〳〵重箱の造り方に斗り屈托して、肝腎、中に入れる正味の品を忘れて仕舞つては、馬鹿々々しいとであらふと思はれる。夫れ故、今度の政變は大變化である。即はち、兼ねてから希望した通りの立憲政躰が成就して、いよ〳〵政黨内閣が出來上つたのであると、コウ覺悟して、速かに實地の政治に取りかゝるが善いと思ふのである。

◎徳川の政治は、巧妙緻密なもので、中々今の人がやゝともすれば惡口を言ふようなものではない。夫でも氣運一と度び去つて、財政の困難が之を促がすときは、最早や如何んともすることが出來なかつた。仕組が左程惡るいのでもなく、人物

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

が決して無かつたと云ふのでもないが、もふ斯うなつて仕舞へば、迚も維持するヿは出來ないのである。則はち、明治政府となつた。扨て、明治政府となつたる曉は、無暗矢鱈に仕組を替へて、只だ何んでも改正さへすれば善政であるやうに思つて居たものもある。獵官熱の工合なども、東京繁昌記に面白ろおかしく書いてあるが、宛然今日の工合だ。然し西郷大久保は直ちに此の弊を看破し、隨分實地の盡力があつたが惜しひ哉、維新の創業未だ十年ならずして前後相續ひて死なれた。之よりと云ふものは、先づ法制の政事て、實際如何なる進歩があつたかは一問題である。たゞ太平のおかげと、世界の大勢で、貿易は少しづゝ盛んになつて來るようであつたが、忽ち日清戰爭と云ふものを開らいたので、末路の衰勢が一時に增長し、之に財政の困難が伴なつて最早や如何んともするヿが出來なくなつた。矢張り第一維新の時と同樣の工合で、伊藤侯も勝海舟の故智を學んで、之を放り出された。其處で先づ第二維新の曉となつたる今日である。然し、實際其の曉となつて見れば、ナンダ、馬鹿々々しい、別段變つたヿもないでは無いかと言ふ人が多からふ。固よりソウ變つたヿのある筈はない。ある筈のように思つて居たのが即はち間違ひである。第一維新の時でも矢張り左樣であつた。ソコデ、自分でも何んだか變になり、他からは固より馬鹿にするから、ソコデ何でもチト變つたヿをせねは成らぬと云ふ慾が出て、いろ〳〵改正と云ふヿをはじめる。スルト才子が色々の建策をして、樣々の新工風をする。夫から、朝令暮改の勢ほひを爲すと、コウ、順序がきまつて居るのである。又、第一維新の初めは、やり手は皆な書生斗りで、仲々今日の大臣位ひ威望のあるものでもなかつた。ソレデ、大抵の人は、アレが何んだなどと鼻であしらつて居たものである。然るに、其の人々が維新を造つたのではない、維新は別に大勢に促がされて出來たものであるから、實際、書生であろうが、何んだろふが、ソンナ事には頓着はない、維新の大勢に乘つかつたものが段々御光を放ち、之を馬鹿にしたものが、段々馬鹿に見へて、遂には、書生が侯爵となり、之を馬鹿にしたものが車引となると云ふようになつた。之は大勢と云ふものの致す所ろで、個々人々の上から言ふては、不公平千万のようにしか思はれないものである。ソコデ今度の政變なども、殆んど

第二維新と云ふても宜しいほどの所云る大變化ではあるが、此の勢ひに乗じて世に出る面々のあまり有がたくもない所ろから、既に世人は馬鹿にして居るようだ。然し、其の馬鹿にして居る人が馬鹿を見るヿも亦た遠くはあるまい。吾輩は、何にも、今度の政變を非常に大きく見て居るのでは無い。實は至つて小さく見て居るのだ。然し、通例、世人が大きく見て居つたる眼識に随つて、其の用語を用いて言へは、所云ゆる大變化だと評するの外はない。世人は今ま實際を見てから初めて失望して、元と自から之を大變化として空想したヿを、今では取消したいように思ひ出したのである。ダが、之を大變化とでも言はねば、世人の所云ゆる大變化なるものは大方た別にありはすまい。

◎ソコデ、第二維新の當路の人は、前々の殷鑑により、成るべく、同じ失敗を少くして貰らいたい。徳川の政治が左程悪るくはなかつた通りに、伊藤の政治も決して悪政ではない。たゞ勢ほひが去ると弊が出るものであるが、其の弊が出て人心倦み、器關亦た弛るんだ丈けの事であるから、其の仕組や法制を變へんとするに忙わしくせず、惰氣を一洗し、新勢力を鼓吹し、大是大方針の上からして、人心を振作し、自づから百事興起するの道を取られたいヿである。而して、山林を調のへ河水を治め、農工を盛んにし、貿易を自由にし、すべて政治の實際に着眼するヿを一日も怠たらず、人才を擧げるよりは誠實の人を擧げ、人才は民間に居て活動し、國産大に增すように仕向けなければ、矢張り又前度の失敗を襲ぐヿであらふと思はれる。

(雜)東京府下の肉食

昔しは伊非の邸(今の參謀本部ある處)に恐る〳〵參上し、金百疋の牛の味噌漬を頂戴して藥させし外、ギウ(牛)を食ふと云へば蛞を食ふ雑子の如く、嫌はれしが、今は東京府下のみにて左の如く肉食者を増加せり、

一月内肉食量

牛肉	四十七万二千六百八斤	毎日凡九十頭を殺す
馬肉	十二万四百二十一斤	
豚肉	十万四千四百四十六斤	

又十五區八郡にての乳牛數、及び一ケ月の搾取高は

乳牛	三千四百十六頭
搾取高	二千百石一斗

右代價八万四千圓四十錢(一合四錢の割)

女學

俄か立身者の家政

孰れか立身出世を願はざらん之を願ふは物の常情なり。竹の子の芥をもたげて下より抜け出んとし、朝貌の蔓の何ものにもすがりて上に伸んとする、皆な夫々の立身出世なり。人苟くも學問勉強して晝夜を舍かざるの所以ん、出世顯達して其力を伸さんことを思はざるはなし。人も我も只管ら其成効を希望して止まざるは勿論ながら、立身にも時節あり出世にも夫々の心得あること故、もしも其の道を履んで宜しきに適わざる時は、折角の幸福反つて災難となり、累を及ぼすこと啻に我一身の上のみにはあらざるべし。

玆に先づ其人の家政の事を言はんに、是迄で素寒貧の一書生月五十圓の收入も覺束なかりしものが、俄かに出世して高等官二等一等と云ふ顯職に登れりとせよ。年俸三四千圓、月に割りて三百圓內外なれば、收入の増加は五つ六つの豊年を一度に得たる如く又甘露の洪水が津波を打つて寄せたる如し。大抵の人は急に氣が大きくなり、錢をまき散らさねば濟まぬようの心地になり。懷がムヅ〳〵してつかんで出したくなり、十錢二十錢の勘定は面倒となり、只だ何となく氣が變になりて心中前日の調子はガラリと變るべし。去れば食べたきもの買ひたきもの飾りたきもの遣りたきもの見せぶらかせたきものなどにて、是迄は懷に相談して殘念乍ら辛棒に辛棒せしものも今は全く制裁なく、餓でガツ〳〵せしものが一時に大食する如く、之も欲しし、あれも欲しゝ、之が無くては不自由なり、アレがなくては不面目なりと思ふもの指を屈して算ふるに堪えぬほど也。是迄に欲しし〳〵と思ひし丈けすら既に斯の如くなれば、之より新たに身分相應と稱へて、一旦氣が高くなりし心の所望に注文するものは亦た格別ならん。たとひ從前に五倍六倍するの收入はあり乍ら、拂出して扨て殘りは何程ありやと吟味して見れば、囊中自から錢なくして依然として困苦する狀態は差して前日と變ることなし。收入が多くなりしに、困り方は元の如しと云ふこと、是れ必竟出し方の烈しくなりし故なり。然るに俄か出世の立身ものに其の出し

方の急に烈しくならぬものは殆んど無し、人大抵は此の通弊を免かれがたきゆへ、以前に變る大相の給料にてさぞかし奥向の優福ならんと傍目には想像さるるに係らず、實際の經濟は少しも變らず、反つて折々に借金する融通の高が前よりは增して、前にはセッパつまりて借用する時は通常五十圓百圓なりしが、此度は五百圓千圓の呼聲にて折々人より借金するとあり。此の借金の額が大きくなりし丈けが信用の增せしにて、此の信用の增せし丈が元とは少し違ふと云ふ、其外に之と云ふ變わりはなきとなるべし。

或人曰く、假令ひ殘金なきとは前と變わらずとも、入りが多くなり生計の度か上りし丈けが愉快なり、何れにせよ人の經濟は入れて出し出して入れ只だ出入の勘定を爲すに過ぎねば同じくは多く入れて多く出したきとなり。山海の珍味も粗飯菜根も入れては到底腹一杯に過ぎず、落ゆく所ろは落花溷藉ひとしく是れ農夫の御用となるに過ぎざれども、さればとて珍味を嫌ふと云ふ譯もあるまじ。人生きて五十年、一縷の生命に壽命と云ふものを繼ぎ乍ら、左樣に身をつめて何の効ある、同じきとならば多く入れて多く出し、奢つてくらして余計に取るべし。是れ活潑人の所望なりと言ふものもあらん。議論としては愉快の說なれば、聞くもの笑わざるはなかるべし。成ほど、いつ迄も多く入れて多く出し、奢つて其入費を支ゆるとの出來るものならば兎に角、人事の變化は一日として氣をゆるしがたし、海上の波の高低は言ふにも足らず、人世波瀾の浮き沈み、今日にして明日の事を知らず、況んや方今俄出世の人才先生などは抑そも榮華の夢を幾年月にか續け得べき、爲まじきものは宮仕へ、百年の浮沈を人の好意に任せて、いつ何時お役御免と相成るかも知れず。昔しは電信と云ひしが今は政黨のおかげと云ふ、元は地震と云ひて恐れたが、今は內閣の顚覆と云ふ、何れにしても結構の事にあらず其の不仕合が何時に巡り來るかを知らざるに、盛花十年の春げしきを年中あるものと心得るは何事ぞや。たとひ吾が味方の內閣は五年六年つゞくべしと己惚れたりとも、心の預算には明日をも知らずと覺悟せでは、戰に臨む勇士の本懷とは言ひがたし。急に生計の度を高め一家維持の入用其定額を增し、奢には慣れ易き人の習慣やうやく惰容をきざせし比ろ、忽然として元の素寒貧に立ち返るとならば、其の苦しさは

何程ぞや。文字を知りて憂患をはじめ、富裕を知りて貧苦をさとる。元は左程にも思はざりしあばら屋、破れ障子が涙の種となり、澤庵を見て珍味を忍び、麥飯に對してホロ〳〵泣くなどは笑止千万の事なるべし。曾て府下の貧民窟を探るに自から貧民と思ひて苦勞するは落ぶれものに限る。士族の舊手、町人の破產者などが、身現在貧民窟にあり乍ら、昔しを慕ひて「世が世ならば」など述懷するは曾て一度は奢りにくらせし果報ものの罰と見ゆる也。之に反し一度も富裕の夢を見ざりし貧民は自から貧民とは思はず、天下の慈善家が涙をこぼす貧民窟を本來の世界と心得、釋然自得して毫も恨みなく、朝たに蛟屋（帋張）を質に置き、夕べに之を受け出し、澁團扇に細き烟をあほぐ都度、驕然として一世を睥睨し、總理大臣と家主とを同等に見て、益もなき世の勳爵の有がたみを覺へざるは、如何にも天眞自活の民、眞とに自主自由の權を得たりとや言はん。翻つて彼の俄か出世の落ぶれし樣を見るに、平生の理屈も物の用に立たず、つけ燒刃は自己の煩腦を斷つに由なく、役々として夢の重荷を脊負ひ、暫時の榮華に一生の恨思を遺して、其後屢ば出世の慾に迷はんとしてのみ日を暮らす狀態は、貧民窟の自主の民にも及ばず、眞とに歎かはしき也。

此故に、立身出世は急ぐべきものにあらず。急ぐときは必らず災と損とあり。然し乍ら、時運到來し俄然顯職に上るべき天命に臨まば、何條一刻も猶豫すべき。わが一身の利害は后にして直ちに其任を負ひ、出來べき限り力を盡すが心得あるものの心得なれば、此期に臨んで出世を不可とするにはあらず、只だ其の家政をつゝしみ、決して俄かに膨張せしむ可らずとは言ふ也。戰后の日本、膨張的日本などと稱へて、急に氣を大きくせし族は孰れも〳〵手を燒たるに反し、不時の利益は年々賴まれぬものと勘辨し、嚴然家法を動かさずして、依然として其風を守りたる商人は、今の逆境にすらビクともするとなし。左れば、一時に出世せし族は、昨日迄の質素の習慣を改ためず、明日にも舊態に立ち返るものと心得て、精神のたづなを少しも弛るめると莫れ。昔しより賢こき人は皆な此德を守り、此德一つの美德となれり。言ふは易く、行ふと難き此の德の如きは少なければ、氣慨あり、自負あり、忍耐あり、大理想あるにあらざれば、中々に守りがたきものな

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

れど、其の習慣に家風を固め置けば、左して亦た六かしきものにもあらず。出世せし後は固より言ふに及ばす、出世する前にも、つね〳〵此邊の心掛はありたきもの也。

扨て、此の德を實行するに當り第一の責任あり權力あるものは即はち家の主婦たる妻の身なり。妻にして榮耀の心を起さず、氣を引しめて昔日の苦勞を忘れず、容易に生計の度を上げずして、基礎を堅固にし、已みがたき事の出費彌よ多くなるにつけても其幾分を節約し、不時の收入あるときは悉皆不時として別に貯はふるようにすれば、たとひ良人は外交の大ザッパに一時騷ぎ出すように見へても、其家政は決して亂れざるべし。俄出世の男子の家政如何んと吟味すれば、直ちに其家の主婦の賢不賢は知らるゝ也。

氣をゆるすと云ふと、怠惰の初めなり。今迄で多年の艱難に苦勞して、我愛子に着せたしと思ふものも着せず、見せたしと思ふものも見せざりし親の情には、先づ今日の顯職に上りてホット一安心し、切めて吾子に丈けも欲しい〳〵と思ひしものを與へんと氣をゆるすは親の常情なり。然し乍ら、眞に其子を愛するならば、未だ決して斯の如す可らず。其子の爲めに一時買入るゝ入用は左程にあらず、コレ位ひは奢りにもあるまじと思はん其心こそ恐ろしき誤まりなり。夫れ、俄に出世せしほどの人ならば、其名も少しは知れ、世人も目をつけ居るべし、何程のお役、何程の收入ある身分となれりと言ふと天下に廣告せられたれば、地位品格は既に定まりたり、其上に誇りて見する必要もなく、其下にさげすまるゝ筈もなし、言はゞ正札を下げられたる如し。左すれば、昨日迄で綿布をきせし吾子に俄に晴着を着せしとて、人は夫を以て初めて出世を知ると云ふにもあらじ。如何なる裝ほひを爲し、身の廻りを何れ程に變へたりとも、昨日迄の素寒貧を消すと能はず。左れば昨日迄の素寒貧が人に知らるゝこそ幸はひなれ當分其まゝに濟ませ、万々已を得ざるとの外は決して俄かに奢ると勿れ。就中、其愛子の心中に、俄かに地位の變はりしとを識認せしめ、昨日迄は地位低く、今日よりは高くなれりなど思はするを以ての外なり。家庭は是れ一帝國、親は是れ最上の人にて、出世不出世の故に價値を增減す可らず。客の出入、物の多少にて、吾が子が親を尊敬する度合ひに高低などあらしむ可らず。家庭の見識は、世の厚遇薄遇にて冷

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

熱あらしめざるようにするが肝要なれば、出世せしときにあわては威張らぬようにするは、引込む時の教訓の仕度也。眞とに其子を思わんほどの賢母は、断じて俄出世の故に其の子の習慣を變へしむる勿れ。

蓄妾の弊風

万朝報新聞日々掲載する蓄妾の弊風を讀みたる乎。醜行続出。百鬼横行す。帝都腐敗一に何んぞ甚しきや。左は二年前の舊作ながら、讀者は尚ほ新らしき慨意を以て一讀の榮を賜ふべきか。

『人』よりも『家』を重んじたるは、封建時代の常習なり。此時に方つては、家名の断絶を恐るること何事にも優りたり。然るに、血統の絶ゆるは即はち家名断絶の由縁なれば、如何にもして血すじを維持するの工夫なかる可らず。子なき妻は之を去るか、去らずは別に妾を置いて所謂ゆる種取りの方を運らすは、當然の處置にてありき。封建時代の蓄妾は、むげに賤しむべき事柄にてはあらざりき。當今の時勢は先代と異なる。家名の断絶を憂ひとして妾を蓄はふるの必要は最早これ無き筈なるに、近來、追々此風を増し、右の一事盛んに復古の姿あるは、何故ぞや。種取りの爲めかと吟味すれば、家の本妻に、ウヨ〳〵するほどの子あり。左らば、本妻の同意によつての事かと見れば、妻妾の間柄、極めて面白からず。むかし、血統の爲めに妾を置く時は、わざと醜婦を擇び、子を擧けたる後は直ちに暇を出せしとなるが今の妾は、概して美貌にして其姿本妻を凌ぎ久しく家門に跋扈して榮華を極む。方今の妾なるものは、抑そも何の必要よりして置かるゝか、頗ぶる不審の至りなり。

通常の奉公人は、月二三圓の外は給金を取らず。家の本妻は言ふ迄もなく斯る種類の要求を爲すとなし。然るに、彼の妾なるものを見れば、毎月少なくとも十圓以上の給金を得て、其上に、帯、着物、簪、笄の類、凡そ要求との出來べき限りは所望せざるとなし。左らば、妾なるものは、何等の奉公をして斯る莫大の報酬を受ると乎。疊の上に錦を着てノロ〳〵惰け居る計りにて斯る収入あるべき筈なし。

伊藤侯爵が、デーリー、ニュースの記者に應答したる一節に、かの遊廓なるものに關したる談あり、云く、

拙者は好んで之を廢するの意なし、悪行を一小局部に制限し、他の地方と他の人民とをして清浄潔白たらしむるの便

法なり、若しも此等七千人の賤女を府內に散在せしめたりとせば、果して如何の事態を生ずべきか、今日の如くにては不品行をやらんには遠方まで出掛けざる可らず、不品行の誘導物は實に人民群集の地と相距ること遠きにあらずや、と。

然るに操を賣る忌わしき婦女子は、單に此等遠方に遠ざけられたる輩儕のみに非じ。侯爵は曰く、今日の如くにては、不品行を遣らんには遠方迄で出掛けざる可らずと。然し乍ら、家庭の內に一種の婦女子を同居せしめ、何等の奉公の爲めか筋道の分らぬ役目に對して破格の給金を支拂ひつゝありとすれば、不品行の誘導物が遠方にありとは言ひがたかるべし。何故に、廓內にて操を賣るものは不潔にして、家庭にて女德を賣るものは清淨なるか。吾輩の解する能はざる所也。

或人の曰く、妾を置くは、快樂の爲め也と。堂々たる人間を玩弄にし、而も其貧困にして賴りなきを利用して吾が快樂の具に供するとは、苟くも氣骨ある男子の爲さざる所ならんと思はるれども、假りに之を實際あることとなし、扨て、畜妾は果して快樂を與ふるものなりやと穿鑿するに、其事頗ぶる疑はし。吾輩の知る所によれば、妾を置くほど不快の種となるものはなしと聞く。實際、快樂を與ふるとは、如何樣の事を言ふとなる乎。

凡そ、妾たるに種々あり。第一は、本妻と同居するもの。第二は、妾宅をしつらへ、榮耀を極むるもの。第三は、男子の卑劣なると、女子の意氣地なき爲め、世人を聾か盲の樣に思ひ、人は知らずとして、內所掛りと云ふ日陰ものとなり、妻ある男子をぬすむもの。又、身受せられ、夫が爲め妻子の苦しむを知りても、斷はること出來ず、錢の義理にて主人に從ふもの。之を斷はれば、恩知らずと思はるべきか、又は、欺むいたりと思はれ樣かと、只管ら之を恐れ、妻の心配を思ひ遣らず、啻に主人の前を好くせんとて、正妻になる目的なくとも悅こび居る顏をなすもの。又、うぬぼれて自から俠氣に誇り、もし自分が主人より離るれば、其家立ぬ樣に思ひ、思ふのみか口に言ひて得意なるもの等あり。

妾の種類多しと雖ども、詮ずるに家庭風波の種ならぬはなし之によつて快樂を享くるもの、何處にありや、むかし、佐久間象山は、妻妾同居せしめて、表面を調のへ、天下を治むる

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

も亦た如此く御する耳と高言せしよしなれども、抑そも御すると云ふが第一の誤まりなり。牛馬を御する如く婦女子を御して、男子の高慢となすとは不見識の極にあらずや。家庭を春風にして、伉儷を和樂し、夫妻互ひに敬愛してこそ男女相伴なふの主旨に適ふべけれ。男子、權威をもて壓制し、屏息して言句を吐かしめぬ樣に取締りたりとも、主人の名譽とは言ふ可らず。斯の如くして、妻妾を調和せしめ、一輛の馬車を牽く二頭の馬に、目かくしを爲し、其の嚙み合はぬを指ざして人に誇るが如き爲躰は、素より感心すべき所にあらず。妾を置くを、富豪と心得、甚だしきは、人に見して得意なるものあり。其の馬鹿氣たる顔色に吹聽して、己は氣樂なりと言はんとすれども、試みに其人の中心に分け入つて、眞實に其の本音を叩けば、妾を蓄はふる男子の意中は、苦心慘澹たるものなり。抑そも何の快樂かあらんや。彼は、妻妾の二人にかしづかれ、外見甚だ豪氣なる如く見ゆれども、其實は我より二人にかしづく也。堂々たる男子の身を以て、双方の女子に氣兼し、竊かに機嫌をとりて心配止む時なし。どちらにも善き樣に見せかけて、他方に對つての愛を隱し、只管ら御身をのみ思ふ也と繕らふは遊君の爲す業と聞たるが、妻妾に挾まれて、好意を双方に繫がんとする主人公は、少しく此に類せずや。偶たま計畧齟齬し、妻妾二人の目前、吾が言ひし事に矛盾を生じ、どうやら閨中の氣休めが暴露せんとする時は、突然、癇癪を起して一時の破綻を繕ふなど、經營慘澹たりと云ふべし。新衣を調ふるにも、土産を持歸るにも、繼母が先妻の双子に掛念する如く、双方への釣合を權つて苦心一と方ならず。温かき家庭ならば、欣喜雀躍して感謝すべき事々が、一々爭そひの種となり、與ふる主人も双方の氣合を考へ、貰ひたる方も他に比較し、折角の好意は常に惡感を惹き起す。主人が、煙草盆を取らするにも、茶一杯を飲むにも、今度はどちらに命ぜんかと思案工夫するに至ては、妻妾二人を侍べらすの事業も亦た困難なりと謂つべし。密かに妻を慰さめんとすれば、妾はぢろりと睨む、妾を慰さめんとすれば、妻は立聞す。下男下女出入のもの等も、黨派を作つて、一方に味方し、又、味方の如く見せかけて他方に通じ、もしくは主人に告げて、内命を聞き、何程かの小遣料を取るものあり。一家は宛から敵同士の寄り合にて、眠る間も安心せず。家庭

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

こゝに至つて主人に何の快樂ありや。
或ひは言はん、妻妾二人を同居せしむる器量ある男子が、何の馬鹿々々しくも双方の機嫌などを取らんや、只だ勝手に振舞つて磊落に處置するのみと。果して然る乎。妻妾二人の安心に掛念してこそ、尚ほ些さかの人情あり、双方の愛顧に心配する意氣地なき所ろが寧ろ幾分殊勝なる所ろと思はるれども、假りに此邊の顧慮なきを豪傑なりとして、而して其の結果如何んと見よ。此の英雄の末路も亦た憫然にはあらざる乎。
此流疎大の眼中には、妻が家の爲を思ひての苦忠は、一々我に逆らふと見ゆるか、然らざれば、妾に對する嫉妬と思はれ、初めは五月蠅さく、後には悪らしく、遂には、立腹して、寧ろ叩き出さんかと思ひ付くことあらん。此時に方つて、妻薄命の歎きを聞き、其の顔色の青きを見、折々癪を起す所以を察し、吾が目前にてさへ、妻が彼につれなきを考へては、如何にも不愍に思はるるなるべし。一感先づ發すれば、神經鋭敏となりたる妻妾二人に通ずることの迅速なる、電氣にも劣らず。妻は、主人の心を知つて、益々怨み、妾は、主人の心を量りて、彌よ慇れ氣にもてなす。此に至つては、妻の額上には、

追々角を伸し、妾の容貌には、段々可憐の色を添ふ。妻妾、所を異にして、内閣の交迭することを最早や遠きにあらざる也。憐れむべし、糟糠の妻、堂を下り、匹婦成り上りて主婦の席を占む。此に至つて、家庭は平安なりと思ふや。一人の恨みは、萬人の恨みなり。一人の成り上りは、萬人の卑しみ也。炎々たる恨みの焰、執念き女性の胸中に燃え、二六時中、此の家の棟を睨んで休む時なし。たとひ昔時の牛の辰參りは爲さずとも、人の怨みは順回して徹するもの也。
此家遂に長からんや。妾も亦た眼前に榮枯の實歴を見たり。燃出るも枯るゝも同じ野邊の草と、たとひ風流に感ぜずとも、慾心の上に大悟し、又々己が身の上に迴り來ぬ内にとて、速やかに後の用意を爲す。主人の鼻毛未だ落ちざる間に、樣々にねだり、在ん限りの身仕度を仕て、何處へか送り出し、此家の倒るるを思はざる也。夫れ、家の倒るゝを思はずして、暫時の榮耀を好むに至れば、究屈に勉强する人ほど馬鹿らしきはなし。妾は、切りに主人を促がして、所々に遊山保養を爲し、昨日今日を只だ面白く暮さんとして、絶へて明日の事を思はず。財寶日々に去つて、友人はあきれ返り、人々爪彈

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

きして、忠告するものもなし。此に至つては、其職業は衰ろへ、收入は絕え、當座の借錢と賣食ひの外なし。妾の尤とも輕薄なるものは、此時に奔り去ることなれども、不思議にも留まるものも亦多し。此れ一つには剛慾の尙ほ止まざると、もしや幸運の回ることもやと思ふによる。斯して折角にくすねたる妾の品物も又ポツ〳〵と賣出され、遂に、主人と妾と双つ乍ら赤裸々となる。俗に言はば、本妻の怨恨によるもの也。此に至つては、曩の豪氣なるものも、亦た餘勇あるまじき也。

妻妾同居して、稍や睦まじきもあり。近人亦た例外の事として賞賛することあらん。主人は殊の外、鼻を動めかすことならんと雖ども、此とて普通激烈なる紛爭の例に比べて、稍や穩やかなりと言ふに過ぎず。二人の女性、一人の男子に侍りて、中心平安なりと言ふことは、元來あるまじきこと也。むかし、加藤左衛門も、驚怖して發心したり。もし妻妾の仲睦まじくば、彼等が間に非常なる執念ありと思へ、尋常の如く表面に露はれぬ丈けに猛烈なるもの也。もし又實際に睦まじくば、實は、主人の愛を何とも思はざるにて、本來冷淡至極に考へ居る也、主人の身に取りて結構なる事にはあらず。もし又、眞實に仲好くしたる覺悟ある妻妾ならば、非凡秀拔の婦人也、かゝる得がたき妻を有ちながら、之に無用の苦勞を掛くるは宜しからず。又、かゝる得がたき心得あるものを妾にして、一生の日陰ものとなすは、男子の俠にあらず。速かに暇を遣はし、獨立の婦人とならしめ、あつぱれの女德を煥發せしむるこそ此婦人に相應したる男子の覺悟なるべけれ。吾が妾は感心なりと言ふは宜しけれど、此の感心なる妾を玩弄物にして、自身は之に匹敵せぬことを世人に示すは、男子の不名譽にあらずや。

妾の中には、俠骨あるものもあり。本妻の氣の着かぬを見、主人へ對する仕へ風の足らざるを見、其家の内助の覺束なきを見、たとひ我身は一生日陰者となるとも、此を棄てゝ出で行きがたしと思ふ。其の義氣は一と通り感心なることなれども、妾の役に立つことが明白なるほど、正妻の役に立たぬことが明白となり、左なき時は、不束ながら用を足したる正妻も彌よ暗愚の如く見ゆるに至るもの也。此の妾あるによりての多少の便利はなきにあらずとも、不利益の方必らず多し。萬々一、正妻一人の力にて足らずば、別に其の助け樣はあり、何んぞ必

らずしも淫慾の妾を要せんや。何れにせよ、妾たる身分にして、主家に必要なりなど自ら考ふる、之を己惚の極と言ふ。又、妾宅を外に構へ、正妻と別居せしむれば、不都合なき樣に思ふものもあれど、殆んど兒戯の見識也。目前相見ざるとは、數倍に想像するを人の情とす。況して此種の想像力に尤とも富みたる婦女子の心中には、別居せるが故に彌よ大きく感じ、主人が公用にて外出せる時も、妾宅に行くと思ひ、妾は又、主人が世話しくして來訪せぬを、無情と怨み、双方、邪推を逞ましうして、非常の嫉妬をなす。其の度合ひの激烈なること。妻妾同居の場合に優るとも決して劣ることなし。

嗚呼、妾を畜はふるの男子は、何の所望ありて斯る紛爭と難儀とを要めんとはする乎。初めは、其の快樂の爲にすと言ふを聞たり。然し乍ら實際其の快樂にあらざることは明白にあらずや。之をしも倘ほ快樂なりと言はば、喩えば、亞片を喫して、神經を馬鹿にし、半死半生の睡を貪ぼり、夢中に樣々の夢を見て、喝采して氣樂なりと言ふが如し。これ豈に眞實の快樂、また久しきに續くべき快樂ならんや。既に、一生の同伴たる正妻を苦しめ、快樂の道具に使へる妾其人にも不幸を與へ、家庭を一つにして人生の樂しみを同うせんとする天緣斷ちがたき總ての家族にも辛苦を與へ、妾の子を生れ乍らの庶子にして他日の文明時代に拭ひがたき恥辱を蒙らせ、又、此の庶子を兄弟に持つべき本子に他日の迷惑を遺し、わが淫慾の惡模範を家庭に示して子弟の敎育に消しがたき妨害を與へながら、而も倘ほ我一人快樂なりと言ふは、何事ぞや。一馬狂ひて千馬狂ひ、一人の不所存より、五親六戚に迷惑をかけ、延いて世上の惡風習を醸もす。男子生れて斯る害惡を爲し乍ら、何の誇る所ろぞ。金鎖りを誇り貌に示すは、倘ほ小供らし。八字髯を誇り貌に扭るは、倘ほ面白し。妾を人に見して、富豪を誇らんとするに至つては、抑そも何たる見識ぞや。之れ汝の見榮なる乎、何の汚れぞ。之れ汝の淫慾なる乎、何の醜態ぞ。之れ汝の痴情なる乎、何の馬鹿ぞ。世人未だ之を愚にせざるに先だち、汝の下女下男奉公人、汝を愚にすべし。汝の子供も、汝を愚にすべし。抑そも。誇る所、何處にありや。耳を傾むけて、忠貞なる内君が心の憂ひを聞け。仔細に顧りみて、本心の告ぐる所に聞け。畜妾の弊風今日の如きは、國家衰亡の前兆にあらずや。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

時事翁の婦人論

時を觀、機を察して、婦女子の爲めに氣焰を吐くは、時事翁多年一種の特色なり。明治十七八年、婦人論大いに起らんとする時、斯の如くなりし。其の后、數たゝび亦斯の如くなりし、其時や大抵女學挽回せんとするの機にあらざるはなかりき。去年來亦又大いに斯の如し。誰か時事翁の爲めに其女學に忠なるの好意を感謝せざるものある。

其の横田ノブの犯罪に就きて論ずるや(卅一年六月十八日)曰く

本件の如きは事の原因全く男子に在るものにして女子の衷情唯だ憐れむ可きのみ如何に男尊女卑壓制非道の世の中とは云へ一旦懇望して娶りし妻を無法にも虐待して逐出したるのみならず終生變らずと誓ひし口の下より約束の證文を騙り取んとし尚ほ其生計をも失はしめんとするに止まらず現在己が種を宿し居る女に向ひ詐つて情死を勸め眼前にわが妻子を殺して己れ獨り免かれんとするが如き實に呆れ果てたる曲者にして鬼とも蛇とも名狀す可らず人にして人に非ず感情一偏より云へば其肉を啗はんと欲する者も世間に多かるべし女は之に反して飽迄家庭の敎育を守り偕老同穴の契約を重んじて幾多の辛酸を忍びに忍びたる末却つて無情男子に欺かれて誘殺の毒計に陷らんとし今は失望怨恨の情に堪へず半信半疑の間だ兎に角に夫の口より發したる其言を實にして共に死なんとを決心したるものにして世間何れの所にか此の如く憐れむべきものあらんや。

且つ夫れ夫婦たる者は相愛し相助けて一家を成すべき筈の者なるに强力の男子が柔弱の女子を壓制して無法の所置を爲し昨日迄で最愛の細君をば都合ありとて忽ち其家より放逐するのみならず之が活計を奪ひて路頭に迷はしめんとするを以て足れりとせず欺むいて之を自殺せしめたりと假定するも法律上之を罰するの道十分ならず偶ま氣力ある女子が之に激して少しく疎暴の振舞すれば直ちに引紲へて重刑に處す斯る法律を以て果して人道に協ふものとするか無智も亦甚だし將又今の時節一方に於ては頻りに婦人敎育の復古を唱へて女大學女今川流の仕つけを施こし乍ら一方に於ては佛蘭西丸抜きの法律を制定して之を當て嵌んとし世の婦女子をして適從する所に迷はしむるは最とも不都

[illegible]にて[illegible]せん歟貞婦とも[illegible]とも節婦とも義婦とも稱すべきものにして一旦嫁さし夫を守り姑小姑の意[illegible]

[illegible]女大學の[illegible]は何の[illegible]せず[illegible]

合の甚しきものなり試みにノブの人となりを把つて之を儒流の尺度にて評定せんか貞婦とも烈女とも節婦とも義婦とも稱すべきものにして一旦嫁ぎし夫を守り姑小姑の意地悪るきをよく堪へ究したる實家の親を養ふに必死を賭し黒髪を斷つて夫の心の直ならん事を祈り其の遂に改まらざるを知りて始めて夫を先立て自ら之に殉せんと覺悟し預かじめ遺書を作りて從容亂れざる如きは品性の最も義烈最とも高尚なる者に非ずや然るに唯だ其思ひを遂げざるに乘じ忽ち捕へられて謀殺の未遂といふ何ぞ夫れ殺風景の甚しきや

又、新婦難(卅一年六月廿四日)を論じて曰く、

惣じて姑は頑ましきものなれども就中早く夫に別れて空閨に老いたる女なんどは其喧ましさも一層にして嫁を憎むと甚しく何がな落度を捜して困らせんとし敏捷なれば油斷がならぬと言ひ柔順なれば馬鹿と罵しり儉約なれば吝嗇なりと叱り應揚なれば家持が出來ずと吹聽し甚しきは寢起き髪化粧に迄で立入りて非難攻擊到らざる所なく悴も爲めに側杖を喰ひて事毎に狼狽し陳謝百端僅かに其怒を解くを得れば先づホッと息をつき深夜殘燈の下相ひ對じて涕泣するもの世間其例に乏しからず。女大學の暗礁は何の効をも奏せず三從七去の威し文句は偶たま内氣なる娘をして一生涯を棒にふり甘んじて人の奴隷たらしむるに過ぎず之を以て日本の家庭を善美ならしめたりとは決して信ずるを得ざる所なり。

又、何故に男女を區別するや(卅一年六月三十日)と論じ、民法及び刑法中の姦淫罪を男女同等にせんとする婦人矯風會の意見に贊成して曰く、

試みに思へ現今の如く男子に一分の餘地を存して女子の感情を害するも世界万國に對して少しも手柄話となるとなく歐米各國の文明人種には擯斥せらるるの種に過ぎず寧ろ思ひ切て之を改正して國の躰面を美ならしむると共に神經過敏なる女性をして男子の公平に心醉せしめ全身を提げて我に奉ぜしめんことを企つるは是れぞ日本男子の男らしき擧動に非ずや我等も亦男子なれども既に弱き女子に一目置いて勝たんとするが如き卑劣を快しとせず對待の勝負奇麗ならんことを懸ふて敢て世の政治家に向つて以上の注告を試み以て男子の面目を全くせんと欲するもの也。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

又、内助の功を沒す可らず（卅一年七月八日）と題する社説に曰く、
伊藤の内閣倒れて憲政黨これに代り所謂政黨内閣組織の功を奏したり黨員諸氏の得意想ひ見るべし就ては敢て其注意を促さんとするは他なし諸氏が多年辛苦經營の間に内君の盡したる内助の功を忘却することなきの一事なり家の主人たる政黨員は居家固より妻兒と貧苦を共にし外に出ては常に政界の逆流に妨げられて萬事不如意、其苦心固より容易ならずと雖も元來を丸出にして本人の眞面目と云へば畢竟男子の物數寄にして胸中無限の抱負あり之を喩へは遊獵者が風雪を犯して山野を駈廻るが如し或は石に蹶て怪我することもあらん或は辨當を忘れて饑ることもあらん隨分難澁なりと雖も目的とする所に獲物の大なるものあれば果して之を獲ると獲ざるとに拘はらす唯その獲物を胸中に畫て以て一日を樂しむべし况んや水村山郭の酒旗を見て一酔を買ふの快樂もあるに於てをや苦中自から樂あり苦樂相央すと云ふも不可なし左れば政黨員の辛苦固より辛苦なりと雖も其辛苦中自から功名心の大なるものあれは假令ひ實際に政治上の地位を得ざるも唯是れ一時の狙を謬て中原の鹿

を逸したるのみ其奔走して鹿を逐ふの間には時に或は黨議を凝らす茶屋の奥に葡萄の美酒を傾くることもある可し即ち政界の苦中自から浮世の快樂を得るものにして唯一概に氣の毒とのみ云ふ可らす之に反して内君の多數は本來日本流儀に養育せられたる婦人にして其智識の如何に拘らず政治談の喋々に慣れず其これに慣れざるは即ちこれを知らず之を好まざる由縁にして假へは藩閥の起伏、政黨の盛衰等は先以て無頓着なるに如何なる良縁か、悪縁か、契深くして政黨員を夫に持ち朝に夕に四角張たる議論を持掛けらるれは分らぬながらも夫れ相應に相槌を打つの面倒あるのみならず壯士の始末、書生の世話は自から婦人の受持にして煩はしき仕事に頭を悩ます其一方には主人の身の廻り小供の敎育に心を碎き國元の兩親には衣食の料を送らざる可らず病中の親族には見舞の意を致さざる可らず黨員の出入近隣の附合何れも相應の體面を繕ふの必要もあり一身を粉にして内外上中下の働を爲すは夫に竭す女の道なれは聊も厭ふ所なしと雖も其夫は常に世路に忙くして生計を圖るに遑あらず所有の財産は殘りなく蕩盡して影を留めざるの

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

みならず往々高利の借金に苦しめられて八方に義理を欠き出入りの商人等は支拂ひを請求して催促矢の如く家內は火の車を廻はしても孤軍懸城固く守て尙ほ落ちず前後左右に應接して非常の難場を切り拔くるは思慮周到なる婦人の力大なりと云ふ可し之を要するに政黨員の夫妻共に辛苦なりと云ふ中にも男子の方は自から活潑にして多少の快樂あるに反し婦人は單に苦勞の一方のみ此苦勞を厭はずして飽くまでも辛抱したるは唯良人の言を信じて開運の日を待つか故なり然るに今や黨員は宿昔青雲の志を達して立身出世の佳境に入たることなれは何は承置き先づ糟糠の內君に向ひ多年の誠實厚情を謝して特に大に酬いる所のものなきを得ず

嗚呼、當世婦女子の事を言ふもの多し、立論の堅固嚴格は或ひは他に之あらんと雖ども、よく人情の曲折を辯じ、世態の秘曲を穿ち筆到り、言徹し、かゆき所ろに手の屆きて遺憾なきもの、此の翁の如きは少なし。試みに以上の拔抄を讀め、時々琴線に觸れて人情の曲鏘然として自から鳴るの感あるも多からん。

教育

文部大臣論

文部大臣たるに、蓋し二種あり。

一は、學制の統率、學校の管督を主もなる職掌とす。殆んど、純然たる事務官たる也。西洋文明國、自治器關大いに發達し、複雜なる敎化の諸機能、一齊圓滿に活動する邦家に在ては、文部大臣たる者大率ね如此き一事務官たるに過ぎず。其の職權の太甚だ微弱なる如く見ゆるは、即はち國家隆盛の致す所ろ、寧ろ之を慶すべしとする也。

二は、國民化導の敎育的諸器關を統率利導し、國家の所在ゆる諸機能を提さげて、之を民人敎育の目途に修整活用するとを主とす。必らずしも、學制學校の類に限らる可らざる也。國家の歷史地文を活用し、貿易善隣の實況を利用し、政治、警察、式典、美術、陸海軍等の諸種の方面に、敎育大臣としての意見と權力とを寄付し、此の山岳を庭園とし、彼の江川

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

を池水とし、風景を裝飾とし、物產を恩物とするの概を以て、一國を擧て即はち國民化導の學校となす。何んぞ只だ所云ゆる校舍に限らんや。橫井小楠曰く、古より明君、學校に力を用いざることなし、而して學校より出類の人材出でたる例し曾てあることなしと。之れを卓見となす。文部大臣の國家敎育を以て任ずるや、其眼を高廣にして、必らずしも學制學校の事に限らざる也。之を西洋文明國創業時代の文部大臣、及び東洋開化國に於ける文相の理想となす。

近時及び今時の文部大臣たるもの、其の抱負する所ろ果して如何ん。其の言ふ所ろを聞けば、或ひは第二種にあるが如し、而して其行ふ所ろを察すれば、往々にして、第一種に止まるを看る。未だ知らず其の任ずる所ろ果して如何ん。

學者先生（大學獨立の無益）

學者の國家に於けるや、其の裝飾なり、何ぞ必らずしも實用を望まんや。其の實用なきを以て之を輕んずるは不可なり。其實用たらんことを期して自から俗にするも亦た不可なり。國家久しく學者先生の價値を辨ぜず、學者先生亦た自から任ぜざるも久し。豈に双つ乍ら恨事にあらずや。

古人曰く、儒生何んぞ時務を識らんと。時務を識る俊傑の任なりと雖ども、俊傑以外、豈に卓秀の人格なしとせんや。時務は畢竟少時の機會、人俗徒らに事を起しての紛雜を理する一業務に過ぎず。抑そも天人百代の大法を達觀せんとするものに於て、豈に斯の如き小波瀾に胸を驚ろかすべき價値あらんや。俊傑とは俗世の才物これ也。人もし神仙偉麗の智德を希はゞ、何んぞ必らずしも時務を識ることを以て最上の希望となさんや。

久しひ哉、吾人の學者先生を愛慕するや。而して、學者先生を見ざるの憾みも亦た久しひ哉。大抵、今の學者皆な俗臭あり、其言甚はだ高尙に似て、其の任ずるの抵き眞とに卑しむべし。彼等未だ一代に卓拔すること能わず、遂に俗吏の膝下に趨らざるものは殆んど稀れ也。

人は曰く、大學を獨立せしめよと。獨立の意義果して如何ん。抑そも今の如き大學は、乃わち官に屬して官吏を養成するを可とす、其の獨立は決して祝すべきことにあらざる也。滔々た

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

る千百の卒業生をして悉とく學者たらしめんとする乎、是れ能はざるの事とす。彼等をして官より離れしめんと云ふ、是れ寧ろ不慈悲にあらずや。今の如き大學の組織に於ては、官吏養成を以て至當の要務となす也。

若し夫れ獨立に至ては、氣格品性の事とす、何んぞ必らずしも財本の事に於て言はんや。一鉢に身を托し、寄捨に生命を繼ぐものも倘ほ獨立を失ふことなし。抑そも、學者は邦家の養ひを受けて可也、何んぞ之を疚しとし、又之を憂ひとして、別に獨立維持の生計に顧慮せんや。抑そも大學を獨立せしめて、其卒業生に官臭なからしめんと云ふ如き、果して何の希望に出るやをも知らず。

望むらくは、大學院の改良にある哉。秀抜なる天才を優遇して、自由の發達を供へ、一生を學道に托せしめて、政治以外、時務以外に煥發せしめ、以て邦家の裝飾を天下に誇視せん哉。邦家用より之を珍重奉護するの利益と、義務とを存す。

評論

吉備史屑

金風

○英雄見る所古今相同じなどいへる語は、未た以て英雄を盡したりとなすべからず、古今の人物、唯往々感覺を同うするのみ、感覺を同うするには、氣禀の相同じきに依る、英雄機を見る早き所以のものは、又皆氣禀なり、大凡人の氣質を禀くる清濁の二途あり、氣を禀くる清きものは、私なきものなり、唯其れ私なし、故に機を見ると明か、天下の最も明智なるものは、天下の最も私なきもの也、經に云く心の清きものは福なり、其の人は神を見ることを得べければなり、

海舟先生の江戸城引渡に於ける、人往々其の機智を稱し、先生も亦之れを以て自ら命けんとし賜ふ、先生の自ら知らざるは更に可なり、世人漆桶の見、之れを何とか言はん、

余吉備に來り、舟鞆津を過ぐる毎に、未た曾つて大崎玄蕃の

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

事を憶はずんばあらず、玄蕃名は長行、福島正則に仕へ鞆津城代たり、鞆津は中國の要鎭なり、秋田下總を以て副となし、堅く之れを守る、正則の罪を臺德公に獲て國除かるゝや、下總玄蕃に謂つて云く、安藝は主家の本國なり、君疾く往いて廣島に入り諸將と力を協せ東兵を拒き、以て勇名を揚ぐべし、僕亦此の城を死守せん、玄蕃云く、僕之を城代に承く、一歩も城を離るべからず、下總敢へて復强ひず、日夜防計を爲す、玄蕃獨り柱に倚り假睡するのみ、衆竊かに之れを嘲る、下總亦詰りて云く、今日は子假睡の時に非らず、玄蕃云く、僕の計決せり、下總云く計安くにか出つ、玄蕃云く孤城大兵を受けんよりは、東兵若し至らば僕單身門を出で東將を見、屠腹して城を致し以て城中數百人を救はんのみ、下總嘆服す、藝備諸城の事なくして收めらるゝに至りたるもの、實に玄蕃、忠仁の力なり、抑々中國德川氏の後二大亡國を見る、藝の福島、備の浮田と是なり、福島氏の事の如き、史上疑案多し、余福山に客たり、福山は水野氏草創の地、水野氏の事、復史傳ふる所と符せざるもの有り、今必しも説かず、余殊に大崎氏に感慨なき能はず、（玄蕃後に紀州南龍公の寵に依り

之れに仕ふ）

○元祿六年端午の日備中松山城主水谷出羽守勝美喪心し柳營に刀を拔き人を傷け、大不敬に坐す、武州岩槻城主小笠原佐渡守長重、播州赤穗城主淺野內匠頭長矩等をして往いて松山城を收めしむ、長矩故あり大石良雄をして代りて赴かしむ、水谷氏の士相議し城に據りて去らず、百方之れを曉せとも聽かず、遂に彼我兵を交へんとするに至る、良雄佐渡守に請ふて云く僕願くは城中に赴き試みに之れを諭さん、而して後に攻むるとも未た晩しとせざる也、佐渡云く、已に期を愆る足下辨有りと雖も徒らに死せんのみ、良雄固く請ふ、乃ち單馬甲を擐せず、城門に到り主帥に面せんとを求む、城中斬りて以て徇へんと欲す、藩宰鶴見內藏助云く彼一人虎口に向ふ膽勇嘉すべし、一見の後或は誅し或は赦す亦可ならずや、衆之れを然りとす、鶴見出で見ゆ、衆弓銃夾立威勢森嚴なり、良雄從容として云く一士忠を盡す倘獲易からず、況んや一國心を一にす諸君の如きをや、夫れ事變端無し、僕輩明日亦未た諸君の今日たる無きを保せず、故に僕膜して諸君を外視すると能はざる也、僕前日巷議を聽くに松山侯罪有りと雖も、他

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

の故意人を傷くる者に異り、其の封未た必しも除かれずといへり、然らば則ち今日の擧、むしろ上を犯し罪を重ぬるに似たらずや、願くは之れを熟計せよ、衆之れを聞き意大に沮む、乃ち厚く巳雄を禮して之れを返へす、初め巳雄の城に入る佐渡之れに謂つて云く、足下身を輕んじ虎口に蒞む必ず敵刄に斃らん、巳雄笑つて應ぜず、已にして巳雄復命して云く明旦必ず城を致して去らんと、果して其の言の如し．

此の事世多く之れを知らず、故に殊に錄して異聞を弘む、

○福島正則の史家に悪せらるゝや久し、水野勝成も亦然り、余福山に來り水野氏の事蹟を見、未た嘗つて文武全材、非常卓異の人物なることを想見せずんはあらず、「聰敏祭を美とす」と題し、嘗つて記して云く、

四月十三日より三日間福山にては例に依りて聰敏祭を擧く、吾人は福山人の此の擧を美とするに躊躇せず、

聰敏神社は水野日向守を祀るなり、日向守名は勝成、天和五年和州郡山より備後に移し封せられ、神邊城を賜はりしも、城の形勢に非ざるを見地を相して此に來り、城北天神山に假陣屋を構へ塹を深くし壘を築き經營三年、天和八年八月に至りて功を終ふ、福山城是なり、始め勝成國中を巡視し、其の城くべきものを求め、品治郡櫻山、沼隈郡箕島、深津郡常興寺山の三を得たり、而して櫻山は一方に僻在し、海陸の通衢に非ざるを以て、箕島、常興寺山の二につき允准を得んとす、而して箕島は幕府の聽く所とならず、遂に此に定まると云ふ、毛利氏の臥虎山に城かんとして中止せる如き、水野氏の箕島に居らんとして、德川氏の允さゞりし如き、地理學上より觀察しても、至極面白く感ぜられ、殊に後者の如き德川氏の施設上大に參稽に資すべき者あるを見るなり。开はさて措き、常興寺は廢して佛具を胎藏寺に移し、水呑村に寶山あるに因みて福山と改むと云ふ、今の福山は此くの如くして造くられたる者なり

水野氏の父の譴を得、落魄多年遂に身を微賤に起し、一旦發奮し、手に唾して封侯を取れる者亦偉とすべき者有り、人往々其の躁急を説き、其の不仁を口にする者有りと雖も、福山人が今尚其の祀を存し、魯殿靈光二百歳の後に巍然たる者、豈遺德の人に在るに由るに非らずして何ぞや、大抵藩主の更迭するや、後に來る者の前に在る者の事跡を湮

滅するに務め、遂に風馬牛も相及ぶなきに至らしむる者比比皆然り、殊に廣島人の如きは、許多の罪案を取りて福島正則の一身に嫁するが如き、以て彼州民の性情と、淺野氏の家風を知る可し、福山人の兒女も尚水野公を艶說する者、公の平生や、決して史家傳ふが如き暴横の人に非らざるを證し得ると共に、拓地築城の功を沒せず、其の鬼をして不祀の慘に陷らしめざる阿部氏の寛厚を美とせざるを得ず。

雜録

紅白點々 樂美界の落穗

青柳有美

幸田女史最近西樂談——忍が岡演奏會素人評

○幸田女史最近西樂談

一昨年の春頃、時ならぬ導火に、西樂界は、燦然たる火花をちらした。然しその賑かな樂論も樂評も、全く一時の破裂に過ぎなかッたので、昨年は先づ眠ッた姿であッた。本年は如何なる風の吹き廻はしか、明治音樂會日本音樂協會聯和會

◎頭の手段の、ですか……顔色や髮の色で變へになならんでしょうが……譯でもよいのは白でしょう。桃色は顔の色の白い人でないさ、うつりません。髮の毛の黒い人は、淺黄がいゝなんかさ云ひますの

なぞさ、しきりに若芽をふき出して、又々新春早々賑かになッた。ミューズの神々も、定めてアポローの琴に、凱旋踊でもやッてるこさだろう。そのヘリコン山での羽衣舞が、出來るものなら、見たいものだ。昔し、デルフアイにアポローの神託さいふがあッたそうだ。橋場は日本のデルフアイだ。その神子の口から、アポローの神託が此邦に傳へられるのだ。一夜、月の光にうかれ、隅田川の邊に遊び出でゝ、この土塊の如き人間の受けたおつげは、下の通りであッた。隨分難有く耳を傾くる價値がないでもなからう。

* * * * *

◎橋場には、何も御馳走がないんで、……蚊が御馳走なんです。餘程用心をしないさ、やられますよ。（一寸坐を立ッて玄關口に出られた様だッたが、直に一枚のショールを持ッて來られた）まアこんなものでもかけて、足のさころをしッかりさお包みなさい。

◎矢張り、樂器を造るに、上手なのは、獨逸でしようよ。獨逸では、ピヤノなんか、仲々旨く出來ます。然し、ヴア井オリンばかりは、昔しイタリーで出來た古いものが、一番善いんで、これに適ひません。何か今に傳ッて居ない秘傳があッて、作ッたものだらうさのこさで……佛蘭西の巴里でなんか、近頃……人間の目で見ただけでは……まづ、古るいイタリーのものさ、そッくり違はん様なものを拵へますが……仲々そういふ本當のよい音が出ません。何か、そのヴア井オリンに塗ッてある材料に秘傳があるんで……そんなに音が違がうんだらうさいふこさです。

◎獨逸の次位は佛蘭西……そう獨逸に續てさいふさ穩當でありませんが……佛蘭西からは仲々えらい人が出ます。これも昨年死にましたんですが……アムブロアズ、トマスなんか……非常なもので……國葬になりました。むかふでは、これなんですからナ……

◎日本人の趣味テーストに、よく合ふものは、先づ……メンデルソン……シヨッパン——ショッパンなんかは未だ日本人には仲々聽けませんが……シヨッパン……それから……シユーベルトなんかでしよう。この三人のは、好きましようよ。

虔書たけれども……皆なまづいんで……始めの

◉婦の洋服の ですか……顏色や髮の色で變へにャならんでしようが……誰でもよいのは白でしよう。桃色は顏の色の白い人でないと、うつりません。髮の毛の黒い人は、淺黄がいゝなんかと云ひます。

◉日本人は矢張り僅かの時の間に、餘り變化の澤山あるものは好かん樣で、どッちかと云へば、ゆッくりしたのを好みましようが……だからッて……調子のノベッなのは嫌がッて、調子の方は、極變化のあるのを、悦ぶらしいんですよ。

一躰、日本の音樂と西洋の音樂を較べますと、日本のは、拍子が一種類で……一つぎりなんで……皆な割り切れる拍子ばかりなんですが……あッちののには、三だとか九だとか――九は三で割りきれますが、その三が割りきれませんから、つまり九も割り切れんので――割りきれない拍子が這入ッて居るんで、……それだけ複雜になッて居ます。

◉作曲者で、歌詞までやッて、自分の作ッたものに、つけた人は、あまり知りません。然しワグネルなんかは、少しやりました。詞は大低古るい詩人のなぞ取りますが……その方が、うまくはまるもんですから……詞に合せて後から譜を作るんです。ハイネの短い詩なんか……誰れでも能く取ッて居ます。あの人のは、まづ……情のものなんですから、大變に面白味があるんで……

◉一躰に天才に長生は出來んと云ひますから……音樂者でも、えらい人は早や死にをする樣です。ベートーフエンもモチアートもメンデルソンも皆な歲をとらんで、死んでしまいました。此頃の時代は、拔き勝れた人のない時節だと申ますから、樂の大家も皆な死んで……今では、あまり殘ッて居りませんよ。誠に寄躰で……

◉婦人でベートーフエンなんかと肩をならべる位の人はないかとおッしやるんですか……それはないんですよ……ないんですよ……全くです。然し、ベートーフエンにも尊んで居ッた女が居たかも知れませんから……そうすると、やッぱり婦人の方がえらいんだかも知れない。

◉イタリーには、近頃出ません――全く駄目といふでもないんですが。一人〇〇〇〇といッて……是は申さば駿才といふ性なので、仲々機用な才子と見えて、懸賞の樣な曲を書て、一時隨分持てはやされ、非常な評判でしたが、それから亦二三度書たけれども……皆なまづいんで……始めの樣にうまく出來ませんもんですから、今では、とんと聞えなくなッてしまいました。獨國には、仲々えらい人があるんで、音樂は餘程發達して居ります。アメリカですか……つまりません――然し、今では私なんかの居つた時分とは違ッて、いくらか、進歩はして居るでしようけれど――獨國の方が上で、〇〇〇スタインなんて、世界で有名なもんです。是はオペラが旨いんで……

◉この家は、そんなに長くからといふんでもありませんが……私の歸朝る二三年前から、ひつこしたんです。

◉作曲の大家だからつて……作れるだけ其れだけ旨く彈けるとは、限りません。實は左程にえらく彈けない人が、多い樣です。然し、曲を作るに是非入り用なもんですから、皆な一ト通りにピヤノは彈きます。ヴァ井オリンなんて……ひけた人は餘り無い樣です。ベートーフエンなんか……ピヤノの彈法が極々醜なかつたといふことで……メンデルソンも非常な上手といふ程でもなかつたそうです。然し其處が違ふので……アクセンテ井ンといふ人は非常に奇麗な、うまい彈き法をしたそうですけれど……それで感じた人はなかつたといふですが、彈法は極醜なくッても、ベートーフエンのピヤノには、聽た人が皆泣き〳〵したそうです。そこが力の一種妙な所があるんのでしようよ。

◉別に積極約に聲を好くする法といふものもありますまいが……聲を惡くせん樣に用心するだけは……みんなやッてる樣です。先づ辛いもの……枯椒や唐辛の樣なもの……それから……あまり脂ッ濃いもの、酸いもの……これは人があまり注意もしません樣ですが……酸いものもいけません。

◉ワルツもポルカも、みな舞踏の時の曲の名で……ワルツの方は、一二、一二、一二、といふ樣に柏子が割り切れるし、ポルカの方は、一二三、一二三、といふ樣に柏子が皆割り切れないんです。躍り方から行けば、ポルカの方は跳るし、ワルツの方は引きずるんです。一躰、舞踏といふもの程妙なものはないんで、見て居れば、あれほど馬鹿げたものはなく、自分で仲に這入ッてやッて見れば、あれほど面白いものは……全くないんですよ。

◉歌のうまかッたのは、シューベルトにシューメルです。誰でも、この二人には

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

敵ひません。メンデルゾンさいふ人は餘程機用な人であッたさ見えて、なんでも……これは出來なかッたものは無い樣で……『無言歌』なんさいふものもやりました……この譯字が少し變かも知れませんが。これは樂器で、聽く人に歌の言葉を聽たさ同じ樣な感じを起こさせ樣さいふものなんです。少し醜い樣なさころもないではありませんが……私は納所さんのお聲は仲々いゝ御聲ださ思ひますが……。いくら好い聲でも、仲には醜いのがあるもので。

◉日本の國歌は……エイ……音樂美術上價値のあるものかさいふお問ひなんですか……それですネー……あれは矢張り、あれでいゝんでしようよ。各國の國歌のうちでも、よく出來たうちだッてんですか……あアいふ調は日本固有で、餘所の國には、ありませんのですから……サア……あれで好いんでしよう。然し、なんだか、はッきりしない引きたゝない樣な氣は致します。仲にはマルセイユの曲の樣な元氣のよい飛ぶ樣なのもありますが、國歌はごこのも、一體おちついてゆッくりした方です。マルセイユの樣なのは、外に類がありません。

◉歐洲でも、小學なんかで、毎日唱歌をやりはしません。極僅かで一週間に一時間位のもんです。そうして小供の時に、あまり歌はせませんさ、聲を惡くしてしまいますから。然し音樂の教育は家庭で、樂器でやります。中學なんかでは、たしか隨意科かなんかになッて居る樣です。然し日本の小供やなんかの樣に馬鹿にはしません。私の小學校に居ッて、始て唱歌が這入ッた時にア、これは、なんだらう。歌を作る稽古をするんだらうなんて、騷ぎましたッけ。

◉音樂の大家は、獨身者が多いかッて云ひなさるノ……アハ……ハハ……大抵持ッてた樣ですよ……獨身で居た人はあまりありますまい。然しベートーフエンは細君がなかッた樣です。ソウ……ブラムスも持ッて居ませんでした。ベートーフエンさいふ人は……あれア半狂人なんですから。一體細君も貰はんで、やッて行ふなんて人は、一風變ッた狂人じみた人でないさ出來ませんよ。それからケーベルさんも、獨身だ……アハハ……。あの人もよッぽご面白い人さ見えて、小石川の妙な穢い小さな家に這入り込んで、やつて居なさいますよ。

◉日本で……之れから將來、何んな樂器が流行りますか……サア……知りませんて……。ピヤノはごうも、値段が高いものだし……それだからッてオルガンは陰氣で。神樣のことに使ふために、あんな音の出るものを拵へたか……あアいふ音が出るから、神樣のことに使ッたものやら……そこらはよく了解りませんけれど。然し、晩方なんか、森の中から、オルガンの音の聽こえる時には、隨分莊嚴になッて、好い心持のするものです。日本のお座敷なんかには、ハープ(提琴)を持ッて來たら、流行る樣になるかも知れませんよ。音樂美術上にも價値のあるものです。然し……サア……やッぱりピヤノでしようよ……面白いもんですから。ヴア井オリンは好い便利な點が色々ありますが、六ケ敷くッて骨が折れて、誰れでもやれませんから。私なんかでも、うちにピヤノさヴア井オリンさ兩方あれば、慰み半分には、ごッちの方に手が出るかッていへば、やッぱりピヤノを彈く氣になりまずもの。

◉ヴア井オリンは餘程六ケ敷いんで……矢張、普通以上の才のある人でないさ、やれません。仲々苦しいもので……始めやりかけた一二ケ月の間は面白いものですが、五六ケ月目になるさ、そろ〳〵骨が折れだして、割に面白くもなんさもなく、その頃の嫌さ加減たら、なんさもかんさも言へませんよ。

◉矢張り、音樂も天品で、ヂニヤス(天才)でないさ、カルチユーア(修練)だけでは、ある程度迄のさこしか、行きません。

◉オラトリオは、ぼんさにお聽かせ申たいもので……上さんがよく御撰びなさる『萬歲』や『富士艦』なんかの曲がそれなんで、つまり神を讚美するものなんです。學校(音樂學校)のコーラス(合唱)なんかさ違ッて、二百人位舞臺の上に揃つてやるんですが……サップラノさアルトさテノアさバスさ各部にみんな一人づゝよく出來る人のソロ(獨唱)があるんで……合唱のうちに時々そのソロが這入ッて……やるんです。ごうも實に莊嚴なもので　私なん・聽て居ッて泣きたくなッて參ります。

◉オペラですか……オペラは、私が極好きなんで……まづ聲樂を器樂で耳の方を……また眼の方からも樂まぜようさいふんで……何もかも寄ッてる……先づ美術の粹さいふべきものなんです。むかふの舞臺の仕掛は、何んでも皆機械でゆくんですから、實に巧なもので……。曲のついてる歌を管絃樂……あのオルケストラに合せて歌いながら踊るんです。丁度舞臺さ見物の間のさこに、こ

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

ゝが舞臺だとこんな風にその前のところに、蒲鉾形に少し落ちこんだ様なとこがあツて、その仲に這入ツてる人の頭が、よう〳〵、お客様から見えるぐらいになツてるんです。オルケストラの人々は皆な此所に這入ツてます。そうして、その前のとこに、ちよツと高くなツて、丁度指揮する人の立つとこがあります。このオペラのオルケストラの指揮をする人は、餘程えらくないと出來ませんで……ヴ井ーン(維納也)にも、これをやれる人は、たツた三人しか有りません。私の先生なんかも、その指揮をやツて居ました。オルケストラの人もみな腕ツこきばかりで。ちよツきり七時になると、フアウストならフアウストの序劇といふのを、オルケストラがやり出します。それが濟むと、チリチリチリンと鈴が鳴ツて、丁度鈍帳の様な工合に幕が上りますが……それといツしよに、今まで電氣燈なんかで、隨分明くなツて居たのが、急にぱツたりと消へて、眞暗になツてしまいます。たゞオルケストラのとこばかりには、見物の方からは光が見えない様に、こうかくしてありますが、見臺のとこだけ、明るくなつて譜が見える様にしてあります。幕があくと、ほんとに見事なもので、そこに踊ッ子が出て來て、そのオルケストラに合せて、歌ひながら踊るんです。オルケストラは管樂の方が少なくツて、弦の方が多く、ヴア井オリンが非常に殖へて居ます。そうして時々そのうちのよいのが、ソロ(獨奏)をやるんです。一ト幕濟むと、またチリチリチリンと鳴ツて幕が下ろ、すると、今まで暗かツた電氣燈がまた急にみんな明くなるんです。オルケストラも、やツぱりトー……トートーとやツて、やめて出て行ツてしまいます。そのうちに段々その低いところに歸ツてきますから、『そろ〳〵始るんだな』なんて、見物が待ツて居ますと、指揮をする人の棒が動きだして、またチリチリチリンといツて、幕が明いて、電氣燈が眞暗に消えてしまいます。」これもオペラのうちですが、ヴアレットといふものは、非常に面白いもので、よく見に行きました。桃色だの、淺黃だの色んな色で、こんな風にパツと腰のところから、殆んど眞直に擴ツてる、極短い腰ぎり位の着物を着た娘の踊ツ子がかはる〳〵何人も出て來て躍るんです。」それから……むかふには、こツちの日蓮一代記といふ様なあんばいに、基督の一代記をやる演劇が隨分あります。これで、丁度日本の人形形だんまり……御存知でしよう……あんな鹽梅に物は言はんで、やるだけです。そうして其内の基督なんかにア、比較的に、連中のうちの潔い人がなるツてことです。

◉島崎藤村さんは、近頃お見えになりませんが……おやめになるんですツて……そうですか……あんまり得るところがないツて居なすツたツて。非常に御熱心で、一生懸命なんですツて子ー。それだから、却て、いけないんですよ。そう一生懸命にやりなさらんで、傍らに少しづゝゆつくり何年もかゝツてやりなさるといゝに。兎に角御齢がとツてからですから子ー……。あの方は、一體何歳ですか……廿八……そうですか……それでも……お若く見えますこと……まだ小供の様に……

◉閻門から、鐵道馬車道に出チヤ、巣鴨にア餘程損ですよ。アノ……そこの第一の交番のところから、右へ曲ツて、それから左へ曲ツて……なんでも右へ行ツては左、左へ行ツては右と……こんな風にツツと行きさへすれば、自然と鶯谷に出ますよ。もし間違ツたら、返ツて來なさりさへしたらいゝ……

＊　＊　＊　＊　＊　＊

この間、二時間半位だツた。女史は仲々に客を待つに懇ろな話の面白い人である。九時半の鳴るのを耳にして、教へられた通り『そこの交番』のところから、右へ曲り、それから左に曲り、右へ曲ツては左り、左りへ曲ツては右と、怪しげなる田圃途の間など、たどりたどツて來たが、そのうちに、どうしたことか、吉原大門の前に迷ひ出た。小供らしく、他人に見ツけられて、怪しまれでもすると困るなどゝ、肩をすぼめながら、そこも通りぬけて、巣鴨の庵に歸れば、丁度十二時半だツた。これも詩美神のためと思へば、疲れもしなかツた。

○忍が岡演奏會の素人評（附）明治音樂會

暗黑に其身を隱くして、樂師の門に謁をもとめ、坐をかしげに、曲の解題を申し述べ、これは『しか〳〵』なり、これは『難曲』なりなど、たてつられたればとて、奏演者を益するにもあらず、世人の趣味を耕し得るにもあるまじ。かゝる專門家ぶりたる不正直の樂評は、我が取るところならず。名人の刻みあげたる彫刻は、誰

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

が見ても、旨き啓なり。パンの神が吹きすさぶ牧笛の音は、よく羊の群をも、躍らしむと知るや知らずや。

＊　＊　＊　＊　＊

◉我れ是まで、浄瑠璃に泣き、演劇のせりふに涙もらせしことあるも、器樂を聽て身と心とを震はせしことはあらず。されど、七月九日音樂學校の卒業演奏會に幸田幸子女史が奏せられたるヴアヰオリン――ベリオ氏作コンセルト第九番の曲は、遂に我れをして泣かしめぬ。これ蓋し延子女史歸朝披露の演奏以來、稀れに見る出色のものにて、ユンケル氏の如く氣取りたる厭味の露ばかりも混ずることなく、弓毎に音に靈氣と妙巧とを宿して躍り來り、心の底を衝て遂に我をあげ、其翼のうへに遊ばしめける。姉君延子女史と雖ども、容易にこの上には出ることと能はざらめ。否な、幸子君にしても褒るゝことなくんば、或は姉君をも越ゆる、甚だ難しとすべからず。たゞこの上、詩的宗教の素養に勉めば、たゞ一箇の技術家として終ることなく、また樂士たるの譽れを荷ふに庶幾乎。ピヤノの伴奏は、姉君之をつとめらる。

◉また同じく卒業演奏會に、卒業生安達かう子君が、アンダンテ、カンタビレ及マツルカのヴアヰオリン獨奏は、その彈法頗る師幸田女史に眞似て、弓の動かし樣など殆んと女史の如けれど、未だその神を得るに到らず、窮屈にして恰も作りつけの人形の如く、甚だ面白からざるものあり。隨て、絃も微妙の樂音を起さずに至らずして止みき。伴奏は日く延子女史なりし。

◉ピヤノに於て、遠山女史のかたをうつすもの、之を高木ちか子君とす。ピヤノ專修部卒業生なり。我れ曾て、日本絵繡共進會を見、その出品物の概れみな雅邦の筆致あるに驚きしが、未だちか子君が山女史におけるが如くならず。些細の點に至るまで、其彈法全く女史に似たり。殊にその火なくエキスプレッションなきの點に於て然りとなず。加ふるに輕佻浮華の相態ありて、その樂に及ぼすこと少々ならず。六月十一日の學友會に於て又卒業演奏會に於て、共に獨彈せられたるも、感服せるもの少かりしなるらん。その學姿常に忙しげなるも、見ぐるし。

◉また石野巍氏の如きも、ヴアヰオリンに於て、幸田女史を學ぶ者の一人なり。學友會にリーデイング氏のロマンスを奏せられたれど、未だ弓に使はるゝ如き痴態ありて、之をマスターし居られざるは惜むべし。伴奏者たる幸田女史の、氣遣はし氣に、折々ピヤノを奏しつゝ、横をむひて氏に眼を注がるゝも、師匠の心見へて、ゆかしかりき。

◉學友會の鈴木毅一氏がピヤノ獨奏――クレメンチー氏ソナチナの曲は、男子のくせに、そのエキスプレッション、女性的なりといふを以て足れりとす。瀧氏常にその側に立ちつゝ、力を添へ居られたる、亦美るはし。

◉今や、西樂界の歎美と喝采とのうちに全盛を極めつゝあるもの、之を瀧廉太郎君とす。氏や未だ廿に滿たざる渺乎の少年なり。されど、遙に先輩諸氏を凌ぐの敏腕に富む。その彈ずるや、全心を五指に注ぎ、而して後、始てピヤノのケーに觸る。故に一たび響けは、其エキプレッションの莊重快嚴なることといふべからず、音々皆なこれ力なり。その、ヴアヰオリン界の幸子君と共にピヤノ界の寵兒たること、誠に所因なきに非ず。内田菊子君の如き、曾て人其妙を稱したりしが、同君に及ばざるや、遠し。されば、氏の聖に顯はるゝや、聽衆まづ高く拍手す。音樂學校ありて以來、幸子君と瀧氏の如く、世間の寵をその身に集めたるもの、恐らくまたなからん。卒業演奏會に奏せられたるクレメンチ氏作のソナタは寧ろ不出來にして、學友會に奏せられたる、ベートーフエンのロンドーに劣けたりと見たるは僻眼乎。氏も亦本年の專修部卒業生なり。其彈法によりて察するに頗るケーベル博士に私淑するに似たり。樂界の同氏に望を屬するや久し、希くはその研學を續け、詩的宗教の素養を貯へ、能ふべくんば外國語に精通して、遂にベリーンに航するに至られんことを。

◉學友會及卒業演奏會に於けるヴアヰオリン合奏、共に面白く、無難に出來たりといふ外、評すべき言葉を知らず。ウヰーゲンリードヘン（シユーマン作曲）がホツト（ラモー作曲）モーメシト、シユジカル（シユーベルト作曲）など其曲にて、伴奏は共に橘絲重女史なりき。

◉昨年頃まで、音樂學校の合唱は、女聲常に男聲を壓するの傾あり、世人も之を稱へたりしが、今年春期の學友會を聽くに、不思議にも、女聲全く男聲に布かれ、サツプラノ。アルトの如き殆んどあれども無きが如く、學友會の『埴生の宿』『濱砂』の二曲に至りては、殊に甚しく、目だツて聽ゆるもの、たゞ一テノルあるの

みにて、他の三部は悉く之に殺されたるものゝ如かりき。他の隊にありても、亦これと同じく、テノルバスの聲、獨り活色あり、サツプラノの如き全く眠れるものゝ如し。これ一には當日天氣模様の陰鬱にして、陽聲の引きたたざりしにもよるべけむ。卒業演奏會には、稍々サツプラノの活き返れる心地せるも、なほ男聲殊にテノルの有力なるに如かじ。女聲の各員、今にして大に勉め改むるところなくんば、音樂學校の唯一名物たる（よかれ惡しかれ）合唱も、その重要の眼目を欠て、遂に不調和のものとなり終らんかな。

◎近頃まれにあるほど、面白しと聞けるは、第五回明治音樂會に於て、多、納所、比留間高演の四氏が奏せられたる弦樂四部合奏ミニユエツトの曲なりき。我のかゝる言をなすを聽かば、世の通がる樂評先生など、『あれは素人好きのする曲だ』など、宣ひ給はんか。これも、おもしろし。

◎同じ音樂會にて、ケーベル博士は、ピヤノを奏せられたれど、何時の如く、ひきたゝざりける。是れ全く靑年會館備付の樂器不全にして善良ならざるによるべし。ケーベル氏たるもの、奏樂堂のピヤノに非ずんば、決して彈ずべからず。羅馬の活動には、歐洲大陸を要せしとは、素より知り給ふ所ならん。

手折らるゝ人に薫るや梅の花
清水には裏も表もなかりけり

海舟老伯談話

◎近頃ろ來た支那の留學生を大層鄭寧に扱かふ相だ、夫れで其仲間が來て大變悅こんで話すノサ。癪にさわつて成らんから、ナニツ、馬鹿など言ふてやつた。支那人をチヤン〳〵と言つて討ち懲らすなぞと騷いだのは誰だエ。此頃ろ少し景氣が變つたかと言つて、直きにまたヤンヤと言ふ。そんなことで條理が立つかエ。朝鮮の事だつて御覽ナ。獨立をさせろとか何とか言つて、大層立派な勅語まで出て居るヂヤアないかエ。夫れで何んな義俠をしたのだエ。國家と云ふものは夫ヂヤア濟むまい。いよ〳〵惡るかつたと思ふならば、夫だけ謝して置なければ成らぬ。今ヂヤア人氣が變つたと言つて前の事を忘れて仕舞ふと云ふのは、濟むメイヂヤアないか。ワシの流義はソウダ。コツチは野蠻だからテ。文明の流義と云ふものは、どふも分らないよ。

◎日清戰争の時、コウ云ふ詩を作つた

隣國交レ兵日　其軍更無レ名　可レ憐鷄林肉　割以與二魯英一

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

中島雄に見せたら、馬鹿にして信じない。支那では大相恐れて居ますと言ふから、恐れて居てもソウだと言ふたら、后日もし仰しやる通りになれば此は實だと言つて書付を持つて行つた。黄村などは、其軍更無レ名とは余りひどい、既に勅語も出て居ますとだからと云つて大相忠告した。夫でも之は別の事だと言つて人にも見せた。〇〇サンにも書いてあげた筈だ。

◎李鴻章などは、どふも日本は迚も話しにならんと思つてるだらうヨ、夫でも馬鹿にもせず、老躰ながらワザ〳〵出かけて來るじやあないか。信と云ふものをチヤンと立てて居るよ。

◎遼東の還附は善いサ、ダが其まゝ還すと云ふ馬鹿なとがあるものか。東洋の平和の爲だと言ふじヤアないか。夫ジヤア魯士亞にも相談して、シベリア鐵道に續けるものを大連灣の邊まで延すようにしたらどふだと協議するサ。支那にも承知させて、支那に之をかけさせるサ。金が無ければ償金を貸すのサ。人夫には朝鮮人を使つてやるのサ。ソウすれば東洋の平和の爲にすると言ふものだ。たとへ、此の相談が行われないにしても、どふせ遠からず此論が起るのだから、日本から卒先して申出すべきだ、そうしなければ人心が萎靡すると思つて意見書を出したら、勝はソウ云ふ時勢に暗いとを言ふと云ふので、巳代治サンはじめ大笑ひだつたそうだ。

◎外債には昔しから大反對だ。幕府の末路にでも、ソンナ話しは度々あつた、向ふからも持ちかけられたよ。ダが、どふあつても夫はイケマセンと言つて突き通した。幸にして幕府の政治には、ソンナ厄介をあとには遺さなかつたよ。支那などは幾らでも借りるが善いサ、國が違ふよ。日本の國はソウ云ふ筈ジヤアあるまいジヤないか。天子さまが左様仰しやつてもお止め申す筈ダ。下から外債で國を維持する策を立てて夫で濟むかイ。己はどふあつても外債と云ふものには反對だ。

◎ナアニ、今日あるは前から分つたとダ、今日は結果だもの、どふしてソウ急に何んと出來るものか。また〳〵樂なのだよ、之よりもつと非道くなるのだもの、どふしてコンナ事位ひに驚ろいてなるものか。

◎明治政府は財政で破れると思つて居たが、どふも其の考は誤まらなかつたヨウダよ。勤王家の先生方が、内から破るのだもの、誰の罪でもありやしないよ。

Digitized by Google　　Original from CORNELL UNIVERSITY

時文

鳴鼓録

佛教的基督教とは何ぞや

二三年前このかた、時として『佛教的基督教』の語を耳にす。所云ゆる佛教的基督教とは如何なるものぞ。其辨證を言現はすに佛典の文字をもてするの謂ひか。左らば漢文的基督教、和文的基督教、言文一致的基督教も亦た有らざる可らず。誰か如此き見識を問はん。

然らば、基督教をして佛教の如くならしむるもの、即はち佛教のようなる(的)基督教を所望する一輩の謂ひか。之れ修飾の事にして實際の事にあらず、不化粧にして本體に關はるものにあらず。誰か宗教界の一傾趣として注意するほどの價値あらんや。

果して斯の如くんば、吾人遂に佛教的基督教なる形容詞の如何なるものたるかを辨知すること能はず。

但だ夫れ玆に一事を知る。世の基督教を奉ずるもの大抵曰く、基督教と佛教とは其の根本に於て絶對に相反す、如何なる寛厚の雅量をもて之を調和せんとするも遂に其の合するを見ず、彼等二教をして相對せしむる、此れ彼を破するのみ、或彼れ此を破するのみ、永遠に到底其の和らぐを見じと。而して、其の之を稱するや、經典により、論辨により、事實により、滔々として盡きず。亦た勸めたりと言ふべし。凡そ如此き輿論あるに係らず、佛教と基督教と相似ることの甚はだ多きを認ため、其の目的に於て、其の尤とも緊要なる諸點に於て、其の影響する所に於て、相違ふるは寧ろ相似ることの多きに及ばざるを認ため、斬然、世論に逆らつて二教の親和を樂しみ、釋尊の大慈大悲に對して優渥崇重の敬意を表せんとする一派の基督教家あり。世の所云ゆる佛教的基督教なるものは即はち是れ歟。

苟しくも然りとせば、吾人は之に同情を寄せて其の修道の公平なるを賛して止まざるもの也。夫れ、先づ宗教を研究して一定の安信を得んと欲するものにても、其の聞く所ろの洪廣にして増大ならんを可とす、須からく先づ佛教基督教の兩つ

乍らを聽聞し、而して后ち決着する所あるべし。既に一定の安心を得、宗敎歸依の救主を仰ぐの境界に達したるものは、其の二心不岐の貞信を固守して固より復た狐疑撰擇の輕薄ある可らざるは論なしと雖ども、同時に他宗の宗祖を尊敬し、其言行を他山の石となすの謹愼と雅量とは決して欠く可らず。假令ひ熱信耶蘇基督を奉ずるものと雖ども、之が爲めに一概に他の宗祖を敵視する如きは、其の見解の極めて卑陋なるのみならず、併せて其の自から修むる所ろの厚からざるとを證するの外なし、佛敎界固より此の弊なきにあらねど、そは暫らく措く。吾が基督敎界に於ても屢ば此の卑陋を觀るは愧恥禁ぜざる所ろにあらずや。而も其翼敬しみて他敎を聞、たるにはあらず、初念先づ之を敵視するの邪念をもて之に對す如何んぞ能く其の精神を酌まんや。

然りと雖ども、二三年前來、少こしく此の弊を悟るものあり、基督敎徒の佛敎に對する態度、稍や一變せんとするを觀る、慶事にあらずや。而も尙ほ之を稱して佛敎的基督敎と言ひ、其の正統にあらざるとを唱ふる一種罵嘲の語氣となす。吾黨の頑冥豈に宗祖に對するの恥辱にはあらずや。

此時に際して、近頃ろ「鳴鼓錄」の小冊子を配布するものあり。著者は長崎縣士族本川恒敬と云ふ。吾人は其の出處を知らずと雖ども、亦是れ基督敎徒なるを疑ふ可らず。僅々たる十三四葉、載する所ろ片々の畧語に過ぎずと雖ども、其の修養、自省の跡、察するに余りあり。惟ふに亦た佛道を敬して釋尊の慈悲を尊重するとを忘れざるものか。左に、其の若干の語を抄出して吾讀者に見めす。

鳴鼓錄所載の冒頭に云く、

三人是れ一、更に三廬を建つるを休めよ。驚異あるをもて地下、下劣あるをもて天上。

又云く、

偶像を拜せず、聖日を瀆さず、纔に是れ基督の徒、須らく一音にして万民に通ずるの語に參すべし

聖日を瀆すなかれ、造作せず、尋求せず、是れ安息也。

神と和らがんには、基督と共に死するに若かず、割禮は、猶ほ門外に處するが如く、十字架は恰かも家に還て穩座するに似たり　一切休歇して、處として通せざることなし、只箇の安樂の法門を信ぜよ、基督曰く、我軛安し、我荷輕

Digitized by Google　　Original from CORNELL UNIVERSITY

預想するなかれ、又必とするなかれ、志念僅かに萌して、十方暗く、情想一たび動きて万劫差過す、基督曰く、毋ニ指下神座上而誓一、毋ニ指下王城上而誓一と。通塞は人意にあらざるなり。

ヨルダン河を渡りしものは、四十年、四年、及び四十日等の秘數を識らむ。江海を擊つものは有り、ヨルダン河を截つものは鮮し。

ノア山嶺に泛びて唯八人を救へり、基督地下に葬られて、其化無量無邊なり、彼を小乘といひ、此を大乘と云ふ。天地暗黑、命根絶し來りて、始めて殿幕を裂くるにおはん、基督教は、靈肉不二、神人一躰なり、他に向て求むるなかれ、只須らく懸崖に手を撒すべし。

天地は贖罪なり、又祈禱なり、山上姿容を變へ玉ふ間にも、亦この苦を說き玉ふ。

耶和華亞當を誡めて、善惡樹を食ふなからしむ、曰く、食之日必死と、胸算已に定まる、蛇、婦を誘ふ、二偵エリコに入り來る、耶和華、園中に歩す、七匝して城垣壞る、善く戰ふものは每に已に敗者に勝つ。

吾人の作爲、皆な徒爾なり、聖靈によりて動くに若かず、神を識る人の前には凡べての事可ならざるなし、須らく神即ち攝理の不可思議なるを信ずべし。

基督カナンの婦に答へて曰く、取ニ見曹之餅一以投ニ於狗一不善也と。婦曰く、狗亦食ニ其主果下之貴屑一と、老婆は基督を磔殺し了せり。

聖書は前后相應じ、後前相照らす、方さに是れ天地の文章、故に稱して預言の書と云ふ。

聖靈を以て體となす、父と子とは其の用なり。

ピラト基督に謂て曰く、眞理者何乎と。この時基督若し顯說せば、恐らくは金犢を追ふて再たび埃及に還り去らむのみ、有言を書せず、無言を書せず、聖書の密なるを見る。

經に曰く、地乃虛曠、淵面晦冥と、差別を見るの人は、元始の天地に獨露するを得ず。

沙漠に在りては、自己を觀、約土に入りては、社會を念ふ、筆者は、其の結末に到るに及びて、特更らに左の二句を列記せり、曰く

我等は使徒信經を信ず。

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

且曰く、
常に祈禱せよ。

嗚呼是れ、近時の基督教界に於ける一種の異色にあらずや、而して云ゆる佛敎的基督敎とも稱すべきもの丶中に於ける穩健正統に近き信念にはあらずや。吾人は歡迎して其の所說を再讀したるもの也。

信仰之友

植村正久君が其の『福音新報』紙上に掲載せる敎話說法を編輯し、「信仰之友」と題して新版せるものを讀む。凡そ有神的感操に充溢せる英文の粹を咀嚼し、厭世樂天兼て和せる國文の美を活用して、微妙高潔に西洋人の宗敎思想を發揮するもの、當代謙堂居士の如きは多からず。此の書亦た此の特長を存して余りと云ふべし。其の「眞理一斑」と相待ちて、西洋神學の二善書となすべし。

樂天錄

若し嚴密に言へば、鼎軒は未だ天を樂しむものと云ふ可らず

而も通俗所謂ゆる厭世なるものと相對して之を見ば、其の平穩氣樂にして絕へて慷慨切迫の調なく、奇警なるユウモアを文として、罵倒せず而も笑倒して嬉々たる所ろ、正さに樂天錄の名に恥ぢざる也。鼎軒の文を言ふや、其調を自然にして自家の特色と相和せしむるを可とす。其文を見るに眞とに然り、其文を讀むに眞に其人の如し。一度び之を繙とくもの誰か微笑せざるを得ん。

幕府小史

戸川殘花君の幕府史談に於けるは、自家の人自家の事を言ふに似たり。同情あり、材料あり、主張あり、抱負あり。當代能く及ぶものは稀なり。某の曰く、殘花君は舊幕屋なりと。其語少しく嫌ひなきにならねど、眞に能く言ひ得たり。今ま其の幕末小史第一卷を讀むに、事實の穿鑿甚はだ嚴密所々別種の材料あり、往々、月日の微かきをすら改正せるものあり。文章簡潔、引證宜しきを得。惟ふに啻だに讀史家の愛讀に益するのみならず、之を一種の敎科書として廣く使用せらるゝに適せりと覺ゆ。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

一葉舟

藤村氏、一葉舟を出す。其の散文を集めしものなり。此に集めしものは、むかし嘗て女學雜誌、文學界などに折々認めつるものなるが、皆な是れ當時激感斷腸の餘りに出で、一とわたりの弄そび事にはあらざりけり。宜べなる哉、今また之を讀むに、熱血依然温たかく、多恨毫しも減ぜず、眞とに有情の極みに出でたればなり。惟ふに方今文士彬々たりと雖ども、正さしく風雅に身を托して、西上人の跡を夢寐に慕はんもの、藤村子の如きは多からじ。試ろみに人、此篇の『哀緣』一章を讀め、恍惚其文に魅せられて、其哀しさ戀思と同もに敢果なき流れに沈まんとせざるものは蓋し稀なるべし。

聖書之道

大抵、宗教新聞雜誌の新に出づるや、抱負隆大にして痴氣を存し、而も一種厭ふべき語調を遺して品格を欠く、頗ぶる憾事とせしに、此の度び「聖書之道」の出るに及び、其『宣言』は相變らず盛んなるに係らず、品格あり、祈禱あり、文藻あり、熱情あり、近ごろ有數の文字として吾人は愛讀し了んぬ。

片々

◉アムハラパ

日本橋區中洲に寓居し、アムハラパと名のる修道の士あり。靜居十二年、近ごろ大いに得る所あり、初めて教を說く。自から言わく、本尊佛に聞きて一々御旨を傳ふと。故に知らざる所なく、成しがたき所ろなしと。其の初めて人を一見して直ちに既往の履歴を言ふや、極めて精密、而も酢々として中ると。氏は米倉一平氏の女婿なり、一平氏初めは之を嘲罵せしに近頃は大いに動くと。北海道の山縣勇三郎氏一家皆な歸依す。河野盤州も亦た切りに悅歸しつつありと傳ふ。

◉衆議院の基督教

衆議院第一回の議長中島信行男は、議長席に在りて祈禱することを廢せざりき。先の議長片岡健吉君亦た此事あり、其の議長官舍を去るの前日、土州出身の信徒を集めて祈禱會を開き席上此等の談話ありき。

◉宗教狂と瞰ひられたり

筑后三池の人蓮尾耕藏君、宗教に熱信なるの故に親戚に迫られ、座牢にあると四年、晝夜修錬を止めず、大に得たりと謂ふ。近時、其產を棄てて通宗教講義所を建設し、あらゆる宗派の先覺を請ひて法話を開かんの計畫中とぞ。

◉教育界の異色

昔し嘗て無邊俠禪を追究し、所云ゆる錢屋演說に壯志を震動せしめたる尾崎愕堂今ま文相たり。春の舍おぼろ著「書生氣質」の美男子小町田粲爾たる高田早苗君文部の勅參事官たり。高等教育會議の高等女學校撰出議員中に女性の候補者の擧

らるるあり。同會議私立學校撰出議員の候補者中に、押川横井の二氏を加へんとするものあり。成瀨仁藏氏亦た大いに運動して其の女學校設立の協賛者を集めつつあり。頑結化石の如かりし教育界は、兎に角、按摩して其のコリを解くを最上とす。

●女演說

女演說を、其の女演說の故に不可なりとするは固より不可なり。今回の女演說は、其の演說者の資格に於て少しく如何がわしきとはありと雖ども、兎に角、之を開かんとし、開かんとする氣運あるは、面白きとならずや。

●女學雜誌の評

女學雜誌の評せらるるや多し、左の如きは亦た一風變わりたるもの哉、

單に女學雜誌といへど裁縫を說かず家政を說かず論は政治に及び評は基督教界の傳道、教育は形式的にあらずして心理的より、是れ小公子の譯者故若松賤子の良人として明治女學校の創立者として熱心なる基督教の傳道者としての巖本善治氏の主裁せらるゝ雜誌なりされば本誌を理解せんとする女子は尠くとも普通教育以上の素養あるを要す一家の賢母として良妻として家政の何たると經濟の何たるとを理解するの腦力あるを要す、此素要あり此腦力ありて本誌を繙讀せんか片々たる婦女雜誌を讀むより稗益する所大たるべし蓋し本誌は教育ある閨秀諸女の好伴侶ならんか(七月十五日德島新報)

●獵官

人は獵官の太甚しきを言ふ、吾人は寧ろ其の存外なるを言ふ。何故に今少し烈しからぬかと問ふに、初め別主旨ありて總務委員を擧げ置しが、意外にも直ちに大臣の候補者となりしを以て、兎に角、第一流をもて任ずる人々の出仕の途なきに至り、彼等は已むとを得ず、大久保彥左衛門となれり。第一流の人如此きをもて、少なくとも任官しがたき者の辭柄を生じ、意外にも獵官熱を減じたり。之を聞く、第一維新の折の烈しさは、中々斯の如きものにてはあらざりき。

●現內閣の持續如何

又もや六ヶ月內閣ならんかなど言ふ人も多くあれど、事情は總べて其の長持を保證するなり。もし之にして早く破れなば即ち自から破るのみ。正に災起二足下一の一句を警しめ、油斷大敵の四字を益右に置かば、蓋し過まちなからん。

●本年の米作

ことしの米作は、あらゆる心配の鍵となれり。占するもの天雷無妄の第四爻を得たり。曰く、貞ふすべし、咎がなしと。固より豐年にはあらねど、辛ふじて災を免かれんか、然し乍ら不測の變頭上にのぞむ、固より安心すべき機運にあらずと。

●春畝

春畝侯今回の居作上乘、殆んど間然すべき所るなし。人或ひは其の勳爵を辭せしを彼此と言へど、固より美擧たるに相違なし。世上往々皮肉の曲解を爲すものあれど、此は言ふものの恥辱となるべし。但だ茲に一事を言はんに、勳爵を辭する時は之に附屬せる恩賜の金を奉還せざる可らず、之は勳爵に屬して其の格位を維持せしめん爲めの恩賜なれば、昔時所云ゆる家祿の如し。慶喜公、將軍の名を奉還して其の城地俸祿を奉還せざりしとを責めたる當年の勤王家には、固より此の覺悟ありしなるべし。

●李少荃

春畝侯支那に遊ばんとす。侯の辭表に曰く、事志と違ふと、日清事件以來、侯の失政は少なからねば、密かに李少荃をして名を成さしめたるものも多けれど、侯今回の漫遊には、李鴻章たるもの定めし非常の歡待を爲し、胸襟を開きて獻酬し將來の經綸をも相話するなるべし。而して、侯の從者は歡んで新聞紙などに報道するともあるなるべし。吾が輿論は、李鴻章に日清同盟の意志ありなど言觸すとな

るべし。而して此の老人をして信を得せしむると猶多きなるべし。

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

ゐべし。而して此の老人をして信を得せしむるとも彌よ多きなるべし。

時　報

○女子演説會　東京及び千葉に女子演説會あり。むかし曾て女學勃興の折、壯士、クロンボさなりて女子を操つり、盛んに演説せしめしともありき。願くは亦た斯る忌はしき流行を再たびせしむるとなからん。茲に東京川上座に於ける辨士の名を記しおく、

開會の辭(大石花子)○血涙を飲で男子に訴ふ(金勝女史)○條約實施後の日本女子(太田國子)○骨髓に徹したるの遺恨(大石花子)

因に曰く、右婦人演説家養成を目的とする婦德會の幹事の醜態、東京日々新聞七月十日に記載せらる。

○又千葉に於ける婦人演説　は大石敏子(女子教育)を辨ぜし後ち場内騷ぎさなれり。

◎閨秀　孝女おとよ本所入江町卅一番地(七月十四日讀賣新聞)(同日朝日新聞)○孝女いゑ鹿兒島出水郡阿久根村(七月十日やまと新聞)○陰德婦人(六月廿九日上州新報)○近藤さだ赤坂新町三丁目十二番地(七月八日内外新聞)○死を以て夫を諫む、柳生重太郎妻サク、七月八日時事新報)○强力女(六月廿八日福島民報)○信州小諸製絲場純水館の二女高橋さの(七月六日信濃每日新聞)○孝女中野リン、香川縣豐田郡一谷村(七月八日香川新聞)○殊勝なる少女中村ヨネ、ヒサ、京都四條通大和大路東入(七月十四日時事新報)

◎卒業生及卒業式

神戸女學院(六月廿九日第十六回卒業式)　河島芳(高等科)○鯛中可能、塘香、村上冬(普通科)○新庄春(裁縫專修科)

京都同志社女學校(六月十八日第二十二回卒業式)　竹崎小笑子、荒木ひろ子(專門部師範科)○小野孝野、川勝八雄、相馬立、山口貞(全科)○稻垣悅、多田咲(英語科及邦語撰修)○末光久子　邦語科)

角筈女子獨立學校(六月廿五日第四回卒業式)　加藤文、藤澤操、瀧澤峰(本科)○安齋繁(漢學科)

活水女學校(六月廿九日及三十日)　廣井ゆひ、河野せい(神學科)○箕原ためを(高等科文學科)

コンモドル、ペルリの女婿	時事新報七月七日
朴泳孝娟を慕ふて長崎に向ふ	萬朝報七月七日
少女の風俗	大阪毎日新聞七月五日
紘妓は恥感なきか	下野新聞七月九日
夫婦論。貞妻賢母養成に付女學校當局者に望む	基督教新聞七百七十六號
曾國藩の家庭教育	太陽第四卷第十五號

故若松賤子女史譯述

小公子

全一册洋裝美本
紙數三百五十頁
正價金三十五錢
郵　税　八錢

近代歐米の讀書社界を震動し、劇塲に演ぜらるると數十回、一代の流行を左右して一時年少の子をして悉皆小公子の如くならしめしと云ふは、此書原本奇代の勢力なり。純潔無邪氣、天使の如き一少年は、頑陋執拗の老侯爵を感化し、德に隣あり、母に佳人あり、貧しきを憐み、小作者を愛撫し、言行惣て甘露慈雨の如し、讀去り讀來るうち讀者亦自から化せらるるを覺ゆ、何ぞ其の可憐高潔なるや。少年固より讀まざる可らず、婦女老人亦讀まざる可らず。賤子女史曩に其前篇を譯して世に公にするや、譯文の巧妙を以て亦た一時に喧傳す。森田思軒居士之を以て明治年間譯文の最上乘のものとし、激賞措かず、曾て其第一頁を見て忽ち驚き、一夜通讀、曉に徹し遂に卷を棄る能はざりしと云へり。然るに女史其後篇を公にするに及ばずして不幸長逝し、知人愛惜の情を寄せらるると切なり。即ち曩に其遺稿を收め、女史が一周忌日に會せんとして前後二篇を合せ刊行せしむ。其友湘煙中島女史は字を題し、鄕友松井昇氏は密畫を附せり、同好の士、希くは一讀を賜へ。

出版元　東京日本橋區本町三丁目　博文館

大賣捌　女學雜誌社

○香亭中根淑

布川靜淵　小此木信一郞二氏合著

俳諧史傳

和製美本　紙數三百二頁　中本全一册

定價廿七錢　郵送　四錢宛　許郵劵代用

俳諧の道近頃大に興り、去年此書を公刊せし吾社の微志をして幸に酬いあらしむ、幸慶何ぞ及ばん。それ俳諧は我文學史上に一大特殊の光明を煥發す、一句十七言、尺幅の裡、無限の烟波渺々として際なし、俳諧は和歌に孕まれ、連歌に興り、松永貞德となりて諧謔を擅にし、西山宗因となりて、奇巧好笑なる談林の花を咲かしめ、更に詩聖松尾芭蕉の大手腕をかつて、閑寂沈痛なる正風俳諧の面目を構成す。數百年の間相傳へ、相襲ぎて庶民の美妙なる想念を漾蕩せしめ、幽妙なる詩天地に逍遙す。其源流に溯り、其發達を叙し、其推移を討ね、其變遷を記し、其特想を論じ、其繙讀一番、炳焉として斯文學を腦底に活現せしむるを期したるは、我が『俳諧史傳』なり。之を分てば、俳人個々の傳記となり。之を聯れば、整々一卷の史篇となす。逸事あり、名句あり。一誦の下、恍々乎として、月明かに花香しき境に遊ぶが如からしめむ。若し夫れ一筆輕々に下さず、一字苟もせず、而も文章平易明、叙記精確剴切なるや否やは、世自ら公論あらむ。世の簡文士、一本を座右に備へざる可からず。

早稻田文學評に曰く、此書近年の好著、比較的に言へば、空前の好俳諧史傳なるべし、史眼の頗る濶大なる、叙事評論の其主題と相叶ふて優美、又閑雅、奇警、又遒勁なる、讀むものをして卷を措く能はざらしむるの致あり。

出版發賣元　女學雜誌社

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

○香亭　中根　淑君序
○香梁　小池靖一君序
○半山　石川安次郎君跋
○鼎軒　田口卯吉君著

繪畫入

樂天錄

四六形
美本定價
郵税共金
五十五錢

人生失意の事多し、之を慰むるは樂天主義に如かず、著者が本事の餘暇折に觸れ物に感じて、筆にしたる樂天の意を存する詞歌文章を輯めしものなり、請ふ一讀して樂天の味を知れ。

發行所　東京京橋區彌左衛門町七番地　合名會社　經濟雜誌社

明治女學校受捐金廣告

金十圓也	函館	磯野員爲殿
金十圓也	同	平出喜三郎殿
金十圓也	同	三坂亥吉殿
金十圓也	同	武富かめ殿
金十圓也	同	久保彦助殿
金十圓也	同	工藤彌兵衛殿
金十圓也	同	西出孫左衛門殿
金十圓也	同	伊豫田德次郎殿
金十圓也	同	渡邊なつ殿
金十圓也	同	伊藤鑄之助殿
金十圓也	同	杉浦喜七殿
金十圓也	同	脇坂平吉殿
金十圓也	同	谷津菊右衛門殿

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

明治廿五年三月十五日遞信省認可

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

明治廿五年三月十五日遞信省認可

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY